

静岡県特別支援教育体制推進事業

「自閉症の指導」研究実践事例集



静岡県教育委員会

## 静岡県特別支援教育体制推進事業における

### 「自閉症の指導」研究実践事例集の発刊に寄せて

障害のある児童生徒の教育をめぐる諸情勢の変化等を踏まえて設置された調査研究協力者会議から、平成 15 年 3 月に出された「今後の特別支援教育の在り方について」の最終報告において、一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う「特別支援教育」への転換を図ることが提唱されました。

特別支援教育とは、従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、通常の学級に在籍する学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものであるとされています。

さらに、平成 17 年 4 月に発達障害者支援法が施行され、支援の対象となる発達障害の定義を「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう」とされました。

小・中学校等では、これら発達障害の児童生徒に対する指導法について、教員の研修へのニーズが高まっています。教室の中での対応、授業での具体的な支援等、特別の配慮を必要としている児童生徒への具体的な指導の手立てが求められています。

そこで、文部科学省からの委嘱事業を受けた「静岡県特別支援教育体制推進事業」における特別支援教育推進校として、小・中学校への指導機能、情報提供機能を担うべく、県立養護学校を指定して、自閉症等の児童生徒の指導法についての実践研究を行うこととしました。

本実践事例集は、県立富士養護学校、県立静岡北養護学校・同清水分校、県立天竜養護学校の研究指定校が、自閉症の指導法についての実践を集めたものであります。本冊子が広く活用され、自閉症を中心とした発達障害についての理解が深まり、盲・聾・養護学校はもとより、幼稚園、小学校、中学校、さらには高等学校で学ぶ特別な支援を必要とする幼児児童生徒への適切な指導や支援が行われ、本県の特別支援教育推進の一助となることを願っています。

平成 18 年 5 月

静岡県教育委員会 養護教育課

# 目次

## はじめに

- 1 自閉症とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 自閉症の子どもの理解・評価・支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

## 実践事例

### 着替え、係活動における配慮

「落ち着いて朝の活動に取り組むようになったA男さんの事例」・・・・・・・・5

### 衣服の着脱、管理に関する配慮

「衣服の着脱が進んでできるようになったB男さんの事例」・・・・・・・・6

### 着替え、係活動における配慮

「活動に見通しをもち、取りかかりが早くなったA子さんの事例」・・・・7

### \* 整理整頓への配慮

「身の回りの物を自分で整理し始めたC男さんの事例」・・・・・・・・8

### 係活動における配慮

「進んで係活動に取り組めるようになったB子さんの事例」・・・・・・・・9

### 係活動における配慮

「テーブル拭きが丁寧にできるようになったD男さんの事例」・・・・10

### 給食における配慮

「食形態へのこだわりが改善されたE男さんの事例」・・・・・・・・11

### 給食における配慮

「給食を食べるようになったF男さんの事例」・・・・・・・・12

### 歯みがきにおける配慮

「歯みがきの終了が自分でできるようになったG男さんの事例」・・・・13

### 休み時間における配慮

「一人の時間を落ち着いて過ごせるようになったH男さんの事例」・・・・14

### 休み時間における配慮

「落ち着いて休み時間を過ごせるようになったC子さんの事例」・・・・15

清掃時における配慮	
「丁寧に階段掃除ができるようになったI男さんの事例」	16
清掃時における配慮	
「時間内に階段掃除を行えるようになったD子さんの事例」	17
清掃時における配慮	
「トイレ掃除が自力でできるようになったE子さんの事例」	18
校外学習における配慮	
「校外学習に落ち着いて参加できるようになったJ男さんの事例」	19
校外学習における配慮	
「修学旅行で初めて出かける場所でも友達と一緒に落ち着いて行動 することができたF子さんの事例」	20
集会、儀式等における配慮	
「大勢の人が集まる場所でも落ち着いて行動できるようになったG 子さんの事例」	22
行事における配慮	
「活動に見通しをもち、落ち着いて参加できるようになったH子 さんの事例」	24
コミュニケーションに関する配慮	
「サインで要求が伝えられるようになったK男さんの事例」	25
コミュニケーションに関する配慮	
「言葉やカードで要求を伝えることができるようになったL男 さんの事例」	26
コミュニケーションに関する配慮	
「言葉で思いを伝えるようになったM男さんの事例」	27
コミュニケーションに関する配慮	
「コミュニケーションボードを使い、行きたい場所を伝えるよう になったI子さんの事例」	28
集団での学習における配慮	
「集団での活動に参加できるようになったN男さんの事例」	29
集団での学習における配慮	
「見通しを持って活動に参加できるようになったO男さんの事例」	30

学校生活の基本的なルール獲得への配慮

- 「スケジュールツールの確立により主体的に行動できるようになった  
P男さんの事例」・・・ 3 1

学習の定着に関する配慮

- 「学習に集中できるようになったQ男さんの事例」・・・ 3 2

書くことへの配慮

- 「書くことに対して意欲的になってきたR男さんの事例」・・・ 3 3

学習に見通しを持ち、意欲を育てるための配慮

- 「学習への意欲が育ってきたS男さんの事例（算数科）」・・・ 3 4

\* 離席行動への配慮

- 「教室を飛び出さず授業に参加するようになったT男さんの事例」・・・ 3 5

離席行動への配慮

- 「離席をせずに課題に取り組めるようになったU男さんの事例」・・・ 3 6

投げやりな態度への配慮

- 「課題を理解し、やり遂げることが増えたJ子さんの事例」・・・ 3 7

\* 投げやりな態度への配慮

- 「やる気を出して頑張り始めたV男さんの事例」・・・ 3 8

強い衝動性、攻撃性に関する配慮

- 「安定した気持ちで学校生活を送るようになったW男さんの事例」・・・ 3 9

集団内におけるトラブルへの配慮

- 「集団の中で落ち着いて行動できるようになったX男さんの事例」・・・ 4 0

集団内におけるトラブルへの配慮

- 「小集団活動で友達とのかかわり方を学んできたY男さんの事例」・・・ 4 1

感情のコントロールに関する配慮

- 「一人で落ち着くことができるようになったZ男さんの事例」・・・ 4 2

危険な行動、乱暴な行動への配慮

- 「危険な行動・言葉が減り、周囲と協調することを学んだa男  
さんの事例」・・・ 4 3

\*印の事例は、研究実践校の特別支援コーディネーターが小・中学校と連携して支援した中の事例

# 1 自閉症とは

## (1) 自閉症の原因

自閉症は、その文字が示すような「自閉の殻に閉じこもって周囲の人に打ち解けない」というような状態や性格的なものをあらわすものではありません。

現在のところ、明らかな原因はまだ分かっていませんが、脳の中樞神経系がうまくはたらかないことに因るのではないかと考えられています。

すなわち、先天性な要因によるものであり、風邪などの病気のように一時的な治療で治るものではなく、また、不適切な養育によって起こるものでもありません。

## (2) 基本的症状としての行動の問題(「障害の三つ組み」)

専門の医師の診察と検査で、次のような3つの特徴が3歳ぐらいいまで見られたことが確認されると「自閉症」と診断されます。

### 社会性(社会的相互交渉)の障害

人とのかかわり方が一方的で、常識や社会のルールに従うことや仲間関係を作ることが苦手です。また、相手の気持ちを理解したり共感したりすることが苦手です。

(例)視線が合わない、保護者を求めて後追いをしない、一人で平気でどこかに行ってしまう、友達と仲良くしたい気持ちはあるが、友達関係をうまく築けない、そのときの状況や相手の感情・立場などを考えずに発言する・・・など

### コミュニケーションの障害

言葉が出なかったり、言葉が出ていても会話にはならなかったり、自分の気持ちを上手に表現することができなかったりします。また、相手の言ったことを理解するのも苦手です。

(例)会話の言葉をもたない、反響言語(エコラリア、オウム返し)がある、がほしい時に「がほしいの?」などと疑問文で要求する、自分の気持ちを表情や身振りを使ってあらわすことが苦手、会話の仕方が形式的で、抑揚がない、一方的である・・・など

### 想像力の障害と狭く硬い反復的な活動・興味のパターン

こだわりが強く、物の位置や状態にこだわったり、行動のパターンにこだわったりします。感覚刺激にふけったり、一つのことに熱中して他のことに向かなかったりします。

(例)ごっこ遊びをしない。手や指を宙に向けてヒラヒラさせる、水道の水に手をずっとつけてその刺激を楽しむ、同じ道順でないと怒る、日課の変更を受け入れられない、自分なりの手順がある、図鑑・自動車・時刻表・マークなど興味のあるものに記憶力を発揮する・・・など

その他の特徴として、聴覚・臭覚・味覚・触覚などの感覚が非常に鋭かったり、反対に鈍かったりします。また、得意なことと苦手なことの個人内差が大きいことも多いです。

## (3) 高機能自閉症とアスペルガー症候群

自閉症の大半は知的な遅れを伴うと言われてきましたが、最近になって知的には正常(IQ 80以上)ないし、境界(IQ 70~80)の子どもたちの中に、自閉症の特徴をもつ場合があることが分かってきました。これが高機能自閉症で、(2)で述べた自閉症の基本的特徴を示しながら、境界以上の知能をもつ場合を言います。

また、その中で、アスペルガー症候群は、コミュニケーションの障害の基準を満たさず、言語発達の遅れが認められないものを言います。

6、7歳以後はその時点の様子から高機能自閉症とアスペルガー症候群の区別は難しくなります。

また、会話ができていても抽象的な言葉の理解が難しかったり、対人場面で相手との機微を上手に扱えないためにトラブルになったりすることが多々あります。高機能であっても認知の障害やこだわりなどの自閉症の障害特性をかなりもっているということを忘れずに理解や配慮、支援をしていく必要があります。

#### (4) 自閉症スペクトラムと広汎性発達障害

自閉症といっても、人により特徴のあらわれ方に強弱があります。同じ人でも成長により変化していきます。また知的な遅れを伴う人もそうでない人もいます。そこで、はっきりと区別しきれない幅の広い障害の連続体と捉えようという考え方から「自閉症スペクトラム(自閉症連続体)」という言い方がされています。

自閉症スペクトラムは、正式な医学の診断名としては「広汎性発達障害」と呼ばれています。自閉症(高機能自閉症も含む)、アスペルガー症候群の他、レット症候群なども広汎性発達障害に含まれます。

#### (5) LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)との関連

LD、ADHD、高機能自閉症等の共通の特徴の一つとして、脳の中枢神経系の機能不全、または機能障害に因ると考えられています。脳の障害には連続性があるため、表にあらわれる認知・行動の特性が重複し、明確な区別が難しいことが多いです。また、もとなる一次的障害が違っていても二次的障害としてあらわれる状態が類似していることがあり、さらに区分は難しくなります。

診断名にとらわれず必要に応じて支援をしていくことを前提としながら、二次的障害を区別して適切な支援を行うために、的確な判断を行う必要があります。

#### LD(学習障害)

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定の事柄の習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を示すものである。学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると考えられるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接的な要因となるものではない。【学習障害児に対する指導について(報告)1999年】

#### ADHD(注意欠陥多動性障害)

ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び/又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。また、7歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。【今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)2003年】

#### \* 参考文献

「LD・ADHD・高機能自閉症とは？」全国LD親の会

「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド」国立特殊教育総合研究所

## 2 自閉症の子どもへの理解・評価・支援

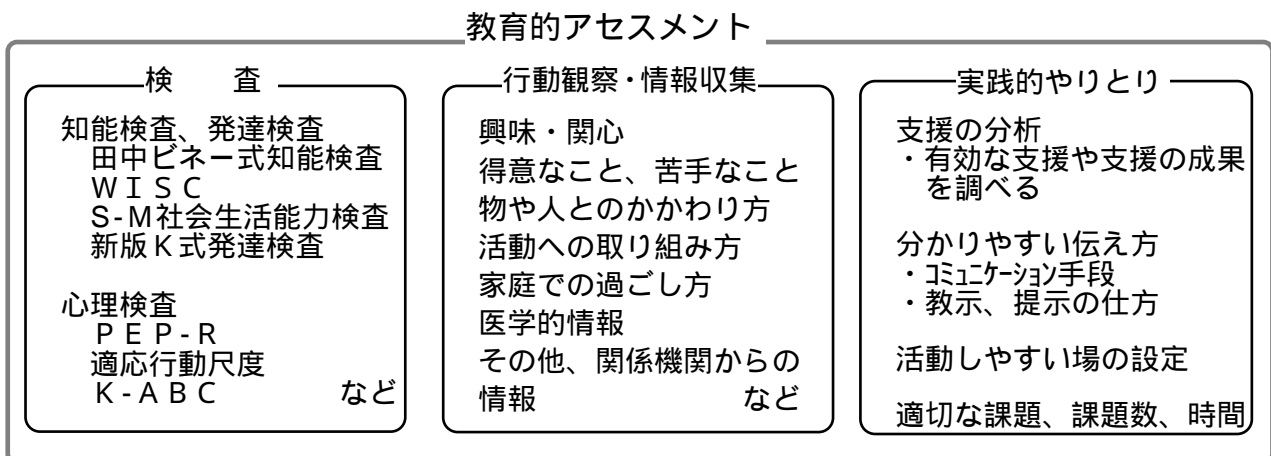
### (1) アセスメントの方法

自閉症の子どもを理解するためには、アセスメントにおいて、発達の状態や障害特性など様々な視点から一人一人の教育的ニーズを把握することが重要です。

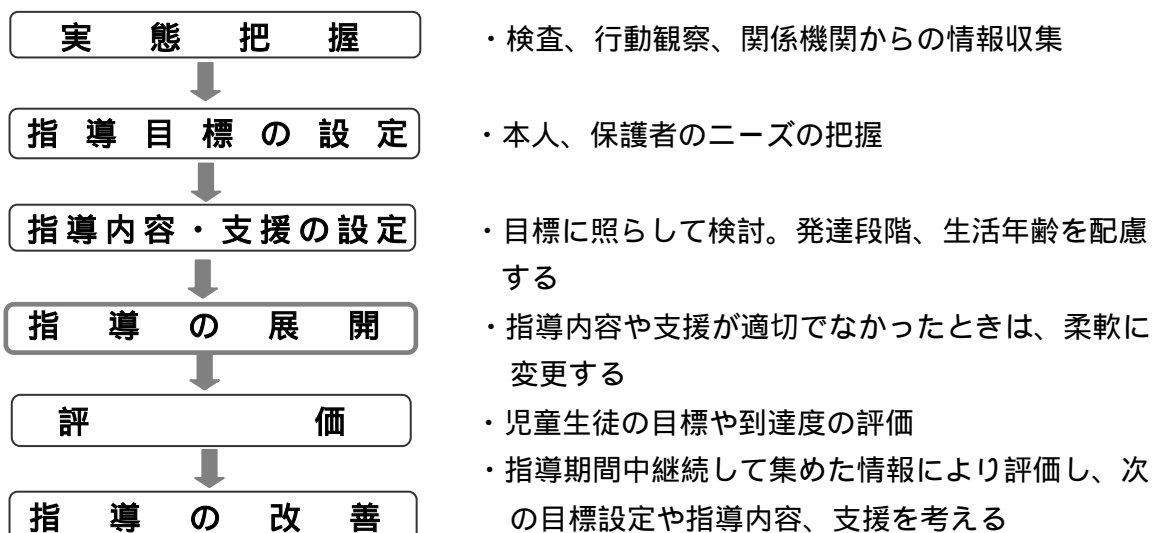
アセスメントというと実態把握ととらえがちですが、それだけがアセスメントではありません。「個別の指導計画」(「個別の教育支援計画」)作成のプロセスには、実態把握、目標設定や指導内容、支援(手立て)の選択、指導結果の評価がありますが、それぞれの段階において、的確なアセスメントが必要となります。

まず、客観的な検査や行動観察から発達の状態や障害特性をつかみ、適切な目標、指導内容や支援を判断します。的確なアセスメントによる子ども理解は、一人一人の特性に応じた支援を導きます。また、指導の過程では、実践的なやりとりをとおして有効な支援かどうかを確かめながら、指導に生かします。さらに、子どもの表れや指導結果の記録を収集し、成果を評価した上で、指導の改善に努めます。

「個別の指導計画」の一連のプロセスが循環しているように、そのプロセスにそって実施されるアセスメントもよりよい指導を探りながら循環しているのです。これらのアセスメントは、下図のように教育的アセスメントとして整理することができます。



### (2) 「個別の指導計画」作成のプロセスにそったアセスメント





### (3)自閉症の特性をふまえた支援のポイント

前述した自閉症の行動特徴であるいわゆる三つ組みは、その認知特性に起因していると言われていいます。そこで、認知特性をとらえ、時間・情報・場・活動を明確にし、支援をすることが有効です。また、認知の仕方は一人一人違うので、日常の行動観察などから、どんなものにこだわりがあるか、感覚にどんな特徴があるかなどを把握するようにします。そして、画一的でなく、できる限り一人一人の実態に即した支援をすることが必要です。

さらに、心理面の支援をすることが自閉症の子どもの学習を支える基本となります。そのため、情緒面の安定を図り、自己肯定感を育てることが大切です。

認知特性をふまえた支援のポイント	
時間に対する配慮	ア スケジュール・順序を示す ・「何を どのように いつまで どれだけ」を明確に示す ・始めと終わり、終わってから何があるのかを提示する イ 活動や流れを繰り返す
情報に対する配慮	ア 視覚的情報を活用する ・具体物、写真、絵、シンボル、文字 イ 言葉かけを工夫する ・明快で単純な言葉かけ ・適度な音量、音刺激の精選 ウ 提示の仕方を工夫する ・誰に、何を伝えているかを明確にする ・個別に、その場で示す ・視覚情報の精選（使わないときは片付ける）
場に対する配慮	ア 分かりやすい環境をつくる ・活動と場所を対応させる ・自分の場所を明確にする イ 気持ちの安定を図ったり、切り換えたりする場の確保をする
活動に対する配慮	ア 課題を分析する ・適切な課題数 ・スモールステップ ・短い時間、短いサイクルでの活動の展開 イ 工程を単純化する ・左から右へのワークシステム ・1日のスケジュールの単純化
心理面の支援	
情緒の安定を図る	ア 共感的理解 イ 肯定的な言葉かけ ウ 「ありがとう」の言葉かけ
自己肯定感を育てる	ア 適切な課題、指導内容の選択により達成感を味わわせる イ できたこと、やり遂げたことをほめる

# 実践事例

事例の参考に対応を考える際には、対象児の認知発達段階に合わせて手立てを考える必要があります。

伝えたい内容は同じでも、対象児の認知発達段階によって伝え方はかわってきます。

## 着替え、係活動における配慮

小学部  
1年男子

### 「落ち着いて朝の活動に取り組むようになった A 男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・ スクールバス下車後、教室に入ってからあちらこちらに動き回り、決められた活動に取り組むことが難しい。
- ・ 着替えに時間がかかり、遊ぶ時間がないまま朝の会を始めようとするとうき叫ぶ。
- ・ 特定の人や物にこだわりがあり、自分が思うようにはかかわれないと怒り出す。

#### 【指導のねらい】

その日の学校生活に期待を持たせ、教師やクラスの友達と一緒に安定した気持ちで一日のスタートが切れるようにする。

登校してからやるべきことが分かり、自分から取り組めるようにする。

#### 【指導経過】

スクールバスから降車するとき担任の一人が出迎え、本児の様子をうかがいながら教室に送る。もう一人の担任は教室で待ち、入室してきた本児とのスキンシップや会話を十分に図る。

スケジュールカードを目の前に掲示し、始めは教師が付いて一つ一つ確認しながら進める。スケジュールの内容については次第に増やす。

着替えの場所に専用の30cm四方のマットを置き、「ラッキーカラーマットのところで着替えをしよう」と約束を作る。中断しないで着替え終わることができたら、大いに誉める。

係の仕事として、本児の興味のある「保健カード」を任せ、1学期は本児が毎日行う。自分の気に入っている係だけにこだわらないよう、2学期からは他児と係の仕事を1週間交代にする。文字を書くことに興味を持ち始めたので、朝の活動の中でその日の予定を書くようにした。

はじめは、活動の終了後に短い時間でも遊びの時間を確保する。落ち着いて活動できるようになったら、自分から朝の活動に取り組めるように、スケジュールカードの横に評価票を用意して、少しずつ遊びの時間がなくても朝の会を始めるようにする。

本児のその日のコンディションを見て、本児の好きなことを話題にしながら活動に取り組ませたり、終了後は十分に遊び相手をしたりする。



#### 【支援のポイント】

- 共感的な理解に基づいたレポート作り。
- その日の生活に期待をもたせるような言葉かけ。
- 本児の好きなキーワードを利用したきっかけづくり。
- 本児のこだわりをこたわり過ぎない教師の姿勢。
- 活動の流れを明確にした視覚的な教材の利用。

## 衣服の着脱、管理に関する配慮

### 「衣服の着脱が進んでできるようになった B 男さんの事例」

小学部

2 年男子

#### 【児童生徒の状況】

- ・ 触感覚の過敏があり、着衣への抵抗感が強いため、特定の衣服以外は着ない。着替えの仕方へのこだわりもあり、裸になって着替えている。
- ・ 寒冷期でも靴下や長袖の着衣に抵抗があり、受け入れが難しい。
- ・ 活動パターンへのこだわりが強く、自分が決めたスケジュールで行動し、着替えの時刻が変わることに強い抵抗がある。そのため、パニックを起こすこともある。
- ・ 言葉での指示理解が難しく、写真を理解の手がかりに使っても受け入れないことが多い。
- ・ 家庭でも同様で、日々の生活で困っているが、対処方法が分からないとの相談を受けた。

#### 【指導のねらい】

視覚的な手がかりを活用して手順を明確化することにより、衣服の着脱がスムーズにできるようにする。

#### 【指導経過】

学級で使う予定ボードと同じカードを用いて個人用スケジュールボードを用意し、その日の予定や変更点を知らせた。

長袖の衣服や靴下を身につけてほしいなどの願いをもとに、写真カードを作成し、家庭と共通で提示するようにした。

生活に必要なサインを知らせ、教師が使うようにした。パニックになったときは、ひどくならないように教師が気持ちを落ち着かせる働きかけをした。(ひとりにする、手を握るなど)同時に胸をなでて見せ、自分で落ち着く方法を知らせた。

しばらくは受け入れに時間がかかるが、何日かすると受け入れることが増え、長袖や靴下を自然に家庭から身につけてくるようになった。



【個人用スケジュールボード】

【靴下をきちゃんと履こうカード】

【衣替えを促す絵カード】

#### 【支援のポイント】

生活の中に楽しみを持たせ、教師と共感できる場を大切にする。

- ・ 好きな遊び(プラレール)を用意し、着替えが終わったら教師と楽しく取り組むようにした。できたことは、その場でほめる。

視覚的な手がかりを活用したコミュニケーションの方法を身につける。

- ・ 本児童には、ビニールケースに受け入れてほしい姿の写真や絵を入れて、をつけておくカードが有効だった。文字での指示も書いておいた。

カードを二組用意し家でも同じカードを活用する。

## 着替え、係活動における配慮

### 「活動に見通しをもち、取りかかりが早くなった A 子さんの事例」

小学部 3 年女子

#### 【児童生徒の状況】

- ・聴覚、触感覚の過敏がある。
- ・登校すると、廊下に座ったり寝転んだりして集団の活動場面から離れ、教師の言葉かけがないと朝の支度に取り組むことが難しい。
- ・着替えの順序、衣服の畳み方、しまい方をはじめ活動パターンにこだわりがあり、気持ちが活動に向かわないと動きが止まってしまうことがある。しかし、見通しがもてれば自分からスムーズに動くことができる。

#### 【指導のねらい】

個人用スペースの工夫により、朝の支度に集中して取り組むことができるようにする。

やり遂げたら好きな活動ができることが分かり、それを楽しみに進んで朝の活動に取り組むことができるようにする。

#### 【指導経過】

パーテーションを利用し、着替えスペースの工夫をした。

視覚的な手がかりを活用して手順を提示することにより、できるだけ自分から着替えに取り組むことができるようにした。

身支度が終わったら、外遊びや教室内遊びコーナーでの遊びの中から何をしたいか聞き、自分で行きたい所へ行くようになった。

行き先を伝えるコミュニケーション手段として、場所の写真カードを使用した。教師が次の活動場所を事前に提示したり、本人が行きたい場所のカードを手にとって伝えたりする手段として用いた。

保健室に保健カードを届けに行けたら外遊びができることが励みになり、係の仕事を朝の活動の流れに組み込むことができた。



【身支度スペース】



【着替えの手順カード】



【写真ボード】

#### 【支援のポイント】

遊びを楽しみにしているので、身支度ができたら外に行けることを約束し、身支度の意欲付けとした。

自分からスムーズに支度ができたときには、その場でほめる。教師と一緒に喜ぶ。

タイミングを考えた声かけをする。本人が次の活動に納得できていないと、言葉かけをしても拒否して動けなくなってしまう。本人が自分のやることに納得して、立ち上がった時や体操服の袋を見た時など、ちょっとした自発的な動きに合わせて促すよう配慮する。

## 整理整頓への配慮

小学校3年男子  
(通常学級)

### 「身の回りの物を自分で整理し始めたC男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・ADHD
- ・集中できる時間は短い、興味・関心のあることには意欲的に取り組む。苦手な活動には参加しようとして、手いたずらをしたり友達にちょっかいを出したりし、時には離席がある。
- ・周囲の状況に関係なくしゃべったり行動したりし、集団行動からはずれてしまうことが多い。
- ・体を動かすことは好きで、体育や休み時間には友達と一緒にドッチボールなどで楽しく遊ぶ。

#### 【指導のねらい】

自分で判断して、整理整頓(片付け)をしたり、チェック表で忘れ物をしないように気をつけたりできるようにする。

#### 【指導経過】

身の回りに散らかった物、落ちていた物を取りあえず入れておく大きな袋を用意しておく。

机の上の物が頻繁に落ちるので、机の角にガードを付ける。

物が無くななくなり、必要なときには自分から袋の中を探ようになった。また、近くの席の友達から「また落ちていた。片付けて」などの文句が減り、トラブルが少なくなった。

机の上に置くデスクマットをガムテープで留め、プリント類を挟んでおくようにした。

プリントが無くなり、また、しわにならず、必要なときに取り出せるようになった。この方法は他の友達にも紹介し、何人かが便利だと採用した。

忘れ物をしないように、透明ケースに教科書、ノート、ドリル、プリントなどを入れてセットしておく。

忘れ物が少なくなり、授業への参加がスムーズになった。この方法も他の友達に紹介し、何人かが便利だと採用した。



(トイレ前)

#### 【支援のポイント】

写真、しきりなどの視覚的な手がかりで分かりやすく提示したり、やりやすい方法を工夫したりする。トイレなどの公共の場面でも使い、本児に向けてだけでなく、校内全体で行う。定期的に整理タイムを設ける、最後まで見届けるなどで習慣化できるようにしていく。「とりあえず袋」「とりあえず箱」などを活用し、細かいところまで要求しすぎないようにする。家庭と情報交換をし、同じ方法で行うチェック表を利用して褒美を出すことで意欲を高めるなどの工夫を行う。

<p><b>係活動における配慮</b></p> <p><b>「進んで係活動に取り組めるようになった B 子さんの事例」</b></p>	<p>中学部 1 年女子</p>
---	------------------

**【生徒の状況】**

- ・自分から係の活動に取り組むことは難しいが、「S 子さんの係の仕事は？」と聞くと「係。」と答え、自分の役割について理解している。
- ・窓開けや花の水やりなど、いくつかの活動を続けて行うことは難しいが、教師の言葉かけで一つ一つの活動を行うことができる。
- ・次の活動を自分から教師に尋ねることは難しく、席に座っていることが多い。
- ・文字を読んで理解することができ、行うべき活動を文字で記して示すことで、自分から取り組むことができる。

**【指導のねらい】**

係活動の内容とその手順を表（文字）に示すことで、一人で最後まで取り組むことができるようにする。

**【指導経過】**

A4 サイズのボードに朝の活動の内容とその順序が分かるように文字で示した表を用意した。また、どこまで進んだのかを自分で確認することができるよう、マグネットを移動するスペースを作った。初めは教師と一緒に一つ一つの活動を確認しながらマグネットを操作するようにした。「次は？」と尋ねられることで「窓開け。」などと言いながらマグネットを次の活動に合わせ、自ら行動を起こすことができるようになった。

登校後、机の上に置かれたボードで自らマグネットを操作し、手順に従って活動することができるようになった。

さらに慣れてくると、自分でボードを用意し、朝の活動に取り組むことができるようになった。また、花の水やりに関しても、天気を見て晴れ、または曇りのときには「やります」、雨降りのときには「やりません」の位置にマグネットを合わせ、必要があるかどうかを自分で判断することができるようになった。



【ボード上で確認する様子】



【活動表ボード】

**【支援のポイント】**

提示する表に関しては、形式、マグネットの大きさ、フォントの種類、サイズなど、生徒が見やすいものになるよう配慮する。

次の活動に移る際、初めは教師が見届けをし、できたときは十分に賞賛したりお礼を言ったりする。全ての活動が終わったときには「全部できました。」と教師に報告をしてから終わるようにする。

活動表を使用する場面を広げ、自ら行動できる場面を更に増やしていくようにする。

A4 サイズのボードを、携帯用にカードサイズにし、めくる形式に変えていく。

<p>係活動における配慮</p> <p>「テーブル拭きが丁寧にできるようになった D 男さんの事例」</p>	<p>高等部</p> <p>2 年男子</p>
<p><b>【児童生徒の状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発語はほとんどないが、「トイレに行きたい」や「お水ください」などの簡単な要求は、動作サインを使って自分から伝えることができる。</li> <li>・スケジュールの変更や混乱により、自傷行為をしたり、こだわりが強くなったりすることが多い。</li> <li>・文字の理解は難しいが、視覚的な手段であればある程度の状況理解ができる。</li> <li>・書写は難しいが、簡単な物のマッチングはできる。また色のマッチングに関しては、すばやい判断を示すことが多い。</li> <li>・複雑な作業は難しいが、2色のビーズを交互に通すなどの分かりやすい作業であれば、順番を間違えることなく正確に行うことができる。</li> </ul>	
<p><b>【指導のねらい】</b></p> <p>視覚的な手がかりを活用して手順を明確にすることにより、一人でテーブル拭きを丁寧に行うことができるようにする。</p>	
<p><b>【指導経過】</b></p> <p>朝、昼、帰りの個人スケジュール表を用意し、活動が終わったらカードを裏返して次の活動が分かるようにした。(写真 )</p> <p>昨年度は、シンボルマークのカードを使っていたが、今年度より写真カードも使うことにした。スケジュール表の操作を一人でできるように、自分でカードを確認するように促し、教師は見守ることにした。</p> <p>上記 ~ を行うことにより、どの活動の次にテーブル拭きを行うのか、カードを見て自分で判断できるようになってきた。</p> <p>一人で給食用のテーブル2台を丁寧に拭くことができるように、写真 のように、テーブルの両端に等間隔で赤と青のテープを交互に貼り、それを見て赤 青、青 赤の順番にテーブル拭きが隅から隅までできるようにした。</p> <p>少しずつ上記 の手順を覚え、一人で丁寧にテーブル拭きができるようになった。教師が離れていても、自分で行えるようになった。(写真 )</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="162 1473 566 1758" style="text-align: center;">  <p>【写真】</p> </div> <div data-bbox="603 1473 1007 1758" style="text-align: center;">  <p>【写真】</p> </div> <div data-bbox="1038 1473 1426 1758" style="text-align: center;">  <p>【写真】</p> </div> </div>	
<p><b>【支援のポイント】</b></p> <p>視覚的な手がかりを活用し、活動がスムーズかつ丁寧にできるようにする。</p> <p>スケジュール表を用い、活動を具体的に示し、スケジュールの混乱をなくし、落ち着いて楽しく活動できるようにする。</p> <p>上手にできたらほめたり、お礼を言ったりする。</p>	



## 給食における配慮

### 「食形態へのこだわりが改善された E 男さんの事例」

小学部 4 年男子

#### 【児童生徒の状況】

- ・味覚や臭覚の過敏があり、偏食が激しい。
- ・好きなお菓子はそのまま食べるが、食事は、きざまないと食べない。
- ・幼児期は魚、カレーなどは普通の形態で食べていたが、現在はきざんで食べている。
- ・少々大きめにきざむと吐いてしまうことがある。
- ・学校ではきざみ食にすると苦手なものも何とか食べるため、3年生まできざんでいた。

#### 【指導のねらい】

食べる量、食材を自分で決めて、通常の形態で食べられるものを増やす。

#### 【指導経過】

お菓子（スティック状）は普通に食べ、幼児期は魚、カレーなどは食べていたことから、きざみ食を中止して食べられる食材を調査した。

- ・スプーンなどで小さくして、口にした食材を献立表に記入し、保護者に渡した。  
おかずを食材ごとに分け、好きな物を半分に切るなど、小さくして1品目ずつ食べるようにしたところ、細かくきざまなくても食べられるようになった。  
スムーズに食べられるようになったら、食材を少し大きくした。  
おかずをそのまま出し、自分で好きなものを選んで食べるよう促した。お盆には1品だけ置くようにした。  
おかずを小鉢に少量取り、全て食べるよう促した。座席配置を工夫し、集中できるようにした。  
この方法で、2学期後半には通常の形態でほとんどのものを食べられるようになった。



【もとのおかず】



【お盆の上に一つずつ置き、  
食べるものを明確に】



【好きな食材をきざまずに  
取り分ける】

#### 【支援のポイント】

食べられる食材を細かくチェックする。

食べる たまねぎ、糸こんにゃく、にんじん、チーズ、いちごジャム

進めれば食べる コーン、ジャガイモ

食べない 煮物類（里芋、やわらかいにんじん） みかん

量は毎日少しずつ増やしていき、どれだけ食べれば終わるかが分かるようにする。

- ・お盆の前方に今日の食べるものを置いて、そこから少しずつ小鉢に入れる。

保護者との連絡を密にする。

- ・家庭でもきざむのをやめて、少しずつ大きくしてもらう。
- ・新たに食べるようになった物は連絡帳などでお互いに連絡する。
- ・お菓子の量を減らす。

過敏性といった障害特性を理解し、決して無理強いはいしない。

## 給食における配慮

### 「給食を食べるようになったF男さんの事例」

小学部5年男子

#### 【児童生徒の状況】

- ・幼少時(～5歳)は、流動食を食べていた。高学年までは食べられる量は徐々に増えてはいたが少量であった。生活リズムは安定せず、睡眠は不十分で登校してくる。
- ・本人なりの決まりごとが多く、学校ではやることも家庭ではやらないことが多い。(家庭での食事は一口ずつ母親が食べさせる、歯磨きは母親がやる)
- ・表出言語はあるが、意思を言葉で伝えることは少なく、教師と目を合わせて表情や視線、教師の気を引くような行動で伝えている。

#### 【指導のねらい】

教師との信頼関係を築きながら、安心して食べられるようにする。

様々な食品を食べる経験をし、好きなものを増やすことで、楽しく食事ができるようにする。

#### 【指導経過】

はじめの頃は、初めて見るものばかりで、自分から食べることはほとんどなかった。その後、一口大に切ってフォークに刺し、手渡すことで食べるできるようになった。その後は、フォークに刺して小鉢に置いておくだけで、自分から手を出し口まで運ぶようになった。

4年生の3学期、ある日突然プリンを食べた。食べた時は担任全員で大いにほめた。その後、5年生になってもデザートについては食べられるものが増え、教師の服を引っ張り、デザートを笑顔で指さし、食べたいことを伝えてくるようになった。

麺類が特に好きで、食器を差し出して、おかわりがほしいことを教師に伝えてくるようになった。麺やパンは半分の量であったが、一人分食べられるようになった。

調理を何回か経験することで食べ物に対する興味がさらに広がった。宿泊学習の調理を経験した後、家庭でも食事の手伝いを役割として与えてもらった。

一緒に食べる教師が2～3か月サイクルで変わることで、初めて食べられるようになる食品も何品もあった。



#### 【支援のポイント】

経験したことのないような食材については、無理強いせず、段階を踏んで食べられるようにする。

- ・フォークに刺して渡す 小鉢に置いておき自分から食べられるようにする 皿に入っている中から自分から食べる。

好きなメニューを把握して、大きさを調整する。

隣で食べる教師との信頼関係を築き、安心して食べられる環境を設定する。

学校で調理を楽しく経験することや家庭で役割を与えることで、食に関する関心を高める。

## 歯みがきにおける配慮

中学部  
3年男子

### 「歯みがきの終了が自分でできるようになった G 男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・ 日常的な活動については言葉での全体指示でほぼ理解できる。
- ・ 初めての活動を嫌がることもあるが、活動の変化には写真などを見せれば概ね対応できる。
- ・ 歯みがきの終了のタイミングが分からず、教員の近くに来て「あー、あー」と声をかけ、終わりの合図を求めてくる。
- ・ 手洗いの終了のタイミングが分からず言葉かけするまで水を流し続けている。

#### 【指導のねらい】

視覚的手がかりを活用して歯みがきの手順を明確化し、一人で歯みがきを行い、終了できるようにする。

#### 【指導経過】

1学期は、給食 食器の片付け 歯みがきの手順カードをつくり、一人で歯みがきに移れるように指導した。

S男が歯みがきを始めたら一緒に行い、うがいをコップ一杯の水で行うことを繰り返し指導した。(コップすれすれで蛇口を止めるように指導)

うがいを自分で終了できるようになったあとに、歯みがきの指導を始めた。

9段階からなる手順カードを提示した。1つの手順が終わったらその絵の横の「 」カードを裏返し、全部の「 」を裏返したらうがいに移るよう指導した。今は何番か、どこを磨くのが分かるようにカードを指し示しながら一緒に行った。その後のうがいだけを一人で行うことをしばらく続けた。

1か月ほど一緒に歯みがきをした後で、一人での歯みがきを促していったところ、手順カードに沿って「 」カードを裏返ししながら一人で終了することができた。

その後は、時々手順を抜かす(一気に「 」を3~4枚裏返す)

ことはあるが、自分で最後までカードを裏返して

歯みがきが終了できるようになった。手順を抜

かすことが続くような時は、手順1に戻って、

手順カードの一つ一つを指し示しながら一緒に

行った。

手順カード



#### 【支援のポイント】

水道の蛇口を止めるタイミングが分からなかったようなので、コップ1杯すれすれで止めることを練習した。(手洗いの指導では洗面器いっぱい水が溜まったら止めるよう指導)

カードの手順が分かるまで歯みがきを毎日一緒に行い、今どこを磨いているか、手順カードの絵を指しながら一緒に行った。時々、歯みがきを手順どおりに行っているのかを見届け、一緒に行って確認をした。

一人で行えたときには賞賛した。

写真や絵カードなどの視覚的な手がかりへの興味を利用し、活動への意欲につなげることができた。

## 休み時間における配慮

### 「一人の時間を落ち着いて過ごせるようになったH男さんの事例」

小学部 5年男子

#### 【児童生徒の状況】

- ・ 休み時間は、一人で何もせず過ごしたり教師とかかわったりすることを好む。
- ・ 言葉で簡単な指示を理解することができる。また、自分の意思を言葉で伝えることができる。
- ・ 漢字に興味があり、難解な字でも見本を見て書くことができる。
- ・ 家庭では、余暇の使い方がうまくできず、母親が毎日のようにドライブに連れ出している。また、勝手に家を飛び出して散歩することもある。

#### 【指導のねらい】

好きな活動を取り入れることで、休み時間などを落ち着いて過ごすことができるようにする。  
好きな活動を自宅での余暇利用に生かせるようにする。

#### 【指導経過】

漢字に興味があり、特に『有』の文字に愛着をもっていた。教師が紙に『有』の漢字を下書きして渡すと、その漢字を本人が切り抜いて一日お守りのように持つようになった。

しばらく『有』の漢字だけにこだわっていたが、突然本人から他の漢字を切り抜きたいと要求が出て、毎朝切り抜きたい漢字を教師に伝えるようになった。教師がその漢字を下書きして渡すと、自分で切り抜き大切に家に持ち帰った。

新聞や漢字辞典を見せると、気に入った漢字を見つけては、自分で下書きもするようになった。切り抜き用の紙を用意しておく、時間を見つけては「紙をください」と教師の所に紙を取りに来るようになった。切った漢字は箱にためた。

切った漢字がたくさんになり、教師が台紙に貼るように勧めると、切り抜いた漢字から自分で糊を使い台紙に貼るようになった。この活動により、休み時間を有効に過ごせるようになった。また、授業にも落ち着いて取り組めることが増えた。

家庭でも漢字の切り抜きを行うようになり、落ち着いて過ごせることが増えた。また、外へ飛び出して行ってしまいうことも減ってきている。



#### 【支援のポイント】

休み時間に好きなことをして過ごす場所を用意する。

- ・ 本人の席を教室のコーナー等、落ち着く場に設置する。

必要な材料、道具を箱やクリアケースに整理し、いつでも取り出せるようにする。

最低限のルールを本人と相談した上で決める。

- ・ やることを済ませてから始める。授業の時間になったら途中でも好きなことをやめる。

漢字への興味が余暇利用に生かされたからといって、すぐに学習に結び付けることはしない。  
家庭生活にも広げたり、趣味のレパートリーを増やしたりする。

## 休み時間における配慮

高等部

### 「落ち着いて休み時間を過ごせるようになったC子さんの事例」

3年女子

#### 【児童生徒の状況】

- ・休み時間は、声かけをしないと決まった場所を走ったり大声を出したりしている。
- ・家庭では、時間があるとゴミ拾いをしている。また、自分から家庭用洗剤で液を作り、シャボン玉で遊んでいる。保護者はゴミ拾い・シャボン玉以外で本人が楽しめる活動を見つけないという願いがあがる。
- ・言葉で指示するより、絵を提示することや、手本を示し模倣させることの方がすぐに覚えやすい。
- ・指先が大変器用であり、でき上がっていく過程やでき上がりを楽しみ、「すごーい」と言って喜ぶことがある。
- ・余暇活動に入る時は、始めは嫌がるが物を見せると自分から取り組む。

#### 【指導のねらい】

自分から取り組める余暇活動を見つけ、落ち着いて休み時間を過ごすことができる。

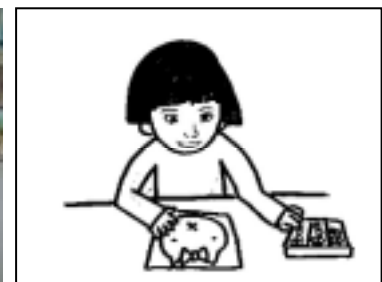
#### 【指導経過】

2年生の時は京花づくりをやっていた。

余暇活動を広げるために、中学部の時にやったことがあったクロスステッチの刺繍を行った。刺繍をするところに色をつけておくとすぐにやり方を覚え、でき上がっていくのを楽しんでいる様子がみられた。京花と刺繍道具は、箱に入れて、いつでも取り出せる所定の場所に置いた。次にパズルを試したが、早く元の形に戻そうとイライラした様子であった。京花や刺繍のように興味を示さなかったため、京花や刺繍と同じ場所には置かなかった。

次にキャラクターが好きなので、キャラクターのアイロンビーズを行った。色が多く複雑ではあったが、見本をよく見て仕上がりを楽しみながら取り組むことができた。また、アイロンも一人で使えるようになった。

休み時間になると3つの中から好きな物を選び取り組むようになった。本人が楽しめる余暇活動を見つけ、休み時間にその余暇活動に取り組むことで、大声で教室内走ることが減ってきている。



【京花、刺繍、アイロンビーズの余暇セット】

#### 【支援のポイント】

休み時間は、余暇活動を行う習慣をつける。

家庭や実習先でも同じ余暇活動を行うようにする。

少しずつ広がった余暇活動を、本人が分かるような物に入れ同じ場所に置き、自分でその時にやりたい活動を選べるようにする。

異常行動を止めるよりも、別の意味のある活動に置き換えていくことが大切である。

## 清掃時における配慮

### 「丁寧に階段掃除ができるようになった！男さんの事例」

小学部 6年男子

#### 【児童生徒の状況】

- ・教師との会話を楽しんだり簡単な指示を理解して行動したりすることができる。
- ・取り組んでいることに自信をもてない場面や、友だちが叱られていることを自分のことのように受け止めてしまう場面など、過敏に反応し情緒が不安定になることがある。
- ・空間における位置関係を表す「前後、左右」などの言葉を理解し、自分で考えて確認しながら行動に移すことができる。
- ・一連の流れを覚えると、自主的に活動に取り組むことができる。

#### 【指導のねらい】

手順を視覚的に明確にすることで、自分から丁寧に仕事を心掛けて掃除ができるようにする。

#### 【指導経過】

階段掃除の手順が分かりやすいように「上・下」「右・左」などの端的な言葉を交えながら、教師が手本を示した。また、「隅」が分かりやすいよう、写真カードを提示すること、湿らせた新聞紙を置くことで具体的な場所を分かりやすくした。

手順表や写真カードを提示しながら掃除をするようにした。一段毎に「右隅 真ん中 左隅」と湿らせた新聞紙を置いていき、一定方向にほうきで掃くというやり方を何度か繰り返し、習得しやすくした。

丁寧に掃除ができるように、ほうきの持ち方や掃き方についても説明を行った。「ほうきの真ん中を持とうね。」など肯定的かつ具体的な言葉かけをすることで、不安定にならず素直に受け入れて取り組めるようにした。終わったら報告することを習慣化し、自分の力でできるという自信も芽生えてきた。

報告を受け、丁寧にできたかどうか教師と一緒に確認するようにした。活動を自分で見直す習慣が付き、以前よりも丁寧に取り組むことができるようになった。また、他の活動場面でも「丁寧に」ということを意識できるようになってきた。



【掃除手順カード】



【ほうきの使い方に注目できるように】

#### 【支援のポイント】

分かりやすいように、簡単な言葉で端的にやり方を伝える。

手順表や写真カード、手本など視覚的な手がかりを活用する。

一人でできるようになってきたと思われる段階で、教師と一緒に取り組むことを徐々に減らし、自分の力で取り組めるようにする。

濡らした新聞紙を置くことで、掃除をした箇所を確認しながら取り組むことができる。

自信をもって取り組むことができるように、できたことをその場で確認し、ほめる。

## 清掃時における配慮

### 「時間内に階段掃除を行えるようになったD子さんの事例」

中学部2年女子

#### 【児童生徒の状況】

- ・階段掃除の手順は理解していて、隅々まで丁寧にできるが、休み休み一段ずつ拭くため休憩が多く時間がかかってしまう。
- ・言葉での指示を理解し、行動することができる。また、要求は言葉で伝えることができるが、思い通りにならなかったり、できなかつたりすると、大声を上げて泣き叫ぶ。
- ・家庭でもマイペースな生活で、時計を見て次の行動に移って欲しいという願いがある。

#### 【指導のねらい】

時間内にできると好きな音楽が聴ける約束を作ったり、タイマーを利用したりして、時間内に清掃を行うことができるようにする。

#### 【指導経過】

掃除表を作成し、曜日毎に行う清掃内容や約束が分かるようにした。また、それが常に目に入るように、清掃場所へ持って行けるよう工夫し、掲示する場所を固定した。

清掃開始前に清掃内容や約束を一緒に確認した。その後、タイマーをセットし、スタートボタンを押させた。

掃除表の下にその月のカレンダーを付け、チェック表を兼ねた物とした。

清掃が時間内に終わったら合格印を押し、3個たまったら昼休みに好きな音楽をたくさん聴けるようにした。

好きな音楽が聴けることが分かると、徐々に手を休めることが少なくなり、時間内で終われるようになってきた。(手際よく行えるようになってきた)

約束の『終わったら、報告をする』ということも身に付いてきて、他の活動の中でも行えることが増えた。



【掃除表】



【活動の様子】

#### 【支援のポイント】

活動の時間を明確にするため、腕時計とタイマーを活用する。

視覚的な手がかりを活用する。

活動後にお楽しみを用意し、目的意識をもって取り組めるようにする。

時間を意識して活動できた時には、その場で即ほめ、自信がもてるようにする。

## 清掃時における配慮

### 「トイレ掃除が自力でできるようになった E 子さんの事例」

高等部 2 年女子

#### 【児童生徒の状況】

- ・ 3 語程度の簡単な指示ならば理解できる。
- ・ ひらがなと小 1 程度の漢字（数文字）は読み書きができる。
- ・ 文字よりも絵や写真などの視覚的なものの方が理解しやすい傾向にある。
- ・ 粗大運動は問題ないが、指先の巧緻性に欠ける点がある。

#### 【指導のねらい】

写真を使用した手順表を掲示することにより、自力で掃除を進めることができるようにする。

#### 【指導過程】

- ① トイレのタイル壁に手順をあらわした写真を掲示し（写真の裏には名前と手順の番号を記入しておく。）清掃の手順と使用する用具を見せながら、最初に教師が示範する。（掃除用具は種類別にまとめ、常に同じ場所に置く。）
- ② 手順表と照らし合わせながら、実際に作業を行うように促し、必要に応じて示範をした。
- ③ 手順表を見ながらの作業が定着するまでは、必要に応じて言葉かけをするが、徐々に言葉かけを減らしいく。
- ④ 終わった作業の写真を裏返すことにより、作業の見通しがもてるようになってきた。
- ⑤ 自分の作業内容が分かり、一人で清掃を進めることができるようになった。



【手順ごとにカードを掲示し、終わったら裏返す。】



【用具はまとめて】



【カードケースに写真を入れて裏返して使う。】

#### 【支援のポイント】

活動の見通しがつくよう、ひとつの作業が終わったら手順表を必ず裏返し、終わったことを確認し、報告するように習慣づける。

作業内容が正確に分かるように、手順をあらわす写真はひとつの動作ごとにしてカードケースに入れておく。

本生徒は視覚優位だが、ひらがなも読めるので、手順表は写真とひらがなの両方を使用する。本生徒が混乱しないように、清掃用具は同じ種類の物をまとめ、常に同じ場所に置くようにする。



## 校外学習における配慮

### 「校外学習に落ち着いて参加できるようになった」男さんの事例」

小学部 2 年男子

#### 【児童生徒の状況】

- ・自分の興味・関心を最優先して行動することが多い。衝動的に興味ある物への飛び出しが頻繁である。
- ・周りを見ないで行動するため、危険な場面が多い。
- ・言葉での指示理解が難しい。「だめ」「しなさい」といった強制的な指示には興奮して拒否をすることがある。
- ・家庭でも同様で、日々の生活で困っており、外出時の対応について相談を受けた。

#### 【指導のねらい】

活動カードを活用して、校外学習「電車に乗ろう」に落ち着いて取り組む。

#### 【指導経過】

事前学習で電車に乗る方法やマナーの学習を行う。その際に文字で書かれた活動内容や駅名、約束をカードにして利用した。

のカードのミニチュア版を個人用に用意し、毎回の授業で活用した。

当日は活動の節目でカードを見るように促し、見通しをもって行動できるように支援をした。

写真や文字で確認することで、落ち着いて行動ができ、飛び出すことがほとんどなかった。注意を受けることがなかったので、楽しい活動経験として成功体験を積むことができた。



【学習カレンダー】



【個人用切符購入手順表】



【個人用駅名カード】

#### 【支援のポイント】

生活の中に楽しみを持たせ、教師と共感できる場を大切にする。

- ・好きな遊び（プラレールなど）を用意し、着替えが終わったら教師と楽しむようにした。正しい行動がとれた度に、その場でほめる。

視覚的な手がかりを活用したコミュニケーションの方法を身につける。

- ・本児には、切符の買い方カードと約束カードを別にして、リングで止めて1枚ずつめくる方法が有効だった。文字での指示も書いておいた。マナーについては、してほしい行動を肯定的な言葉で表現した。乗り降りの駅名は、×ではっきり分かるようにした。細かな指示を出しすぎないよう言葉かけを精選する。

## 校外学習における配慮

「修学旅行で初めて出かける場所でも友達と一緒に落ち着いて行動することができた F 子さんの事例」

小学部 6 年女子

### 【児童生徒の状況】

- ・エレベーターやトイレマーク、商品を見ることが好きであるため、初めての建物などに入ると、建物内を一通り探検して、自分の目で確かめたい。自分の興味があるものを見つけると、それを見たくてその場から動かなくなる。
- ・何をするのが分からないと、勝手にやり方を変えてしまったり、ほかのことをやりだしてしまったりする。
- ・外出することやバスや電車などの乗り物に乗ることが、好きである。
- ・言葉での指示よりも、目で見て分かる手段（絵や文字、写真）を用いた方が理解しやすい。日常使用する簡単な言葉はほぼ理解して行動することができるが、急な予定変更や新しい活動を行う時には、絵や文字（平仮名や片仮名）を紙に書いて伝えるようにしている。
- ・自分の思い通りにならないと、寝そべてバタバタ暴れる、物を投げる、自分の服や近くのものをつまむ、大声を出すなどの行動を起こす。

### 【指導のねらい】

スケジュールチェック表を活用することによって、友達と一緒に落ち着いて行動できるようにする。

### 【指導経過】

\* 日程を知らせ、見通しを持たせるための「スケジュール」と、見学場所で「何をすればよいのか」を示した「チェック表」を用いて指導をした。

### スケジュール

2 日間の活動に見通しを持ち、安心して活動できるように、2 日間の日程（見学場所や移動時の手段）を文字や絵、写真で示した。

見学場所や乗り物の中での約束も、絵や文字で示し、付け加えた。

当日朝、1 日の流れを一つずつ児童と一緒に見て確認をした。

活動が終わるごとに、児童と一緒に赤マジックで をつけ、進行を確認し、そして、次の活動を知らせた。その際に、予想できる約束は、事前に伝えた。特に、次の活動が本児の好きなもの（乗り物に乗る）である時には、それを楽しみに約束が守れるように働きかけた。

トイレに行ってよい場面、いけない場面（移動の場面）を設け、絵で伝えた。

その結果、スケジュールを見ながら、自分でも次の見学場所や乗り物などを確認し、落ち着いて行動することができた。興味のあるものを見つけても、約束を守って友達と一緒に行動することができた。

### チェック表

それぞれの見学場所でのコーナーやアトラクションなどの写真を表にした。

見学場所では、その表を見ながら見学したり体験したりした。見学したり体験したりしたものには、赤マジックで をつけた。

その結果、興味を持って各コーナーやアトラクションを回って見学をすることができた。写真を見て自分でも、行きたいコーナーやアトラクションを選んで見学することができた。

### 【支援のポイント】

本児が 1 番理解しやすい視覚的な手がかりを活用し、丁寧に伝える。

約束は、「×（してはいけないこと）」よりも、「（代わりにとるべきこと）」を伝える。可能な限り、事前にしっかりと伝える。

楽しみなことを用意する。

2 日間同じ教師がかかわる。

【資料1 スケジュール】

乗り物の中での約束



しずかに すわる

しょうがくりょこう 10月25日		
①はじめのかい	⑦あるく	⑧レストラン
②しみずえき	⑧おいてまらえき	⑨あるく
③でんしゃ	⑩ちかてつ	⑩くだんしたえき
④しずおかえき	⑩たげしえき	⑩ちかてつ
⑤しんかんせん	⑪あるく	⑪しよえき
⑥とうきょうえき	⑫かがくじょつかん	⑫バス

【資料2 チェック表】

かがくじょつかん					なまえ( )
<オリエンテーリング>					
<イリュージョンA>		<イリュージョンB>			
<オプト>					
<メカ>					
<ワークス>					

科学技術館の  
チェック表  
コーナーの写真とその  
名前を記している。

## 集会、儀式等における配慮

「大勢の人が集まる場所でも落ち着いて行動できるようになったG子さんの事例」

中学部  
1年女子

### 【児童生徒の状況】

- ・簡単な会話が成り立つこともあるが、アニメに関する独り言を言ったり、相手の同じ反応を期待して一方的に話しかけたりすることが多い。
- ・言葉や文字による指示理解が可能であるが、初めての活動や同じ活動でも以前と変更した部分があると、言葉だけではイメージがもてず、スムーズに受け入れられないことがある。
- ・大勢の人が集まる場所、ガヤガヤした雰囲気は苦手で、居場所や活動がはっきり決まらないまま、みんなと一緒にいる事を要求されると、戸惑い、独り言を言いながら周辺をウロウロする。
- ・お客さんによる授業参観や卒業式などのように、人前でうまくやらなければならないと思うと、緊張のあまり、関係ない事を大きな声で喋り続け、それを止められると、相手を押しやり物や周囲の友達にあたりたりすることがある。
- ・本番では「頑張ろう」という気持ちではりきる反面「失敗したくない」というプレッシャーがあり、やり遂げた時、その反動から、気持ちの整理がつかず、物や人にあたることがある。
- ・お話の世界が好きで、本を読んで待ち時間を過ごすことができる。
- ・一呼吸つきたい時に、自分からトイレや更衣室に行き、気持ちを切り替え戻ってくることもある。

### 【指導のねらい】

活動の予定や約束を伝え、大勢の人が集まる場所でも落ち着いて行動することができるようにする。

### 【指導経過】

活動の予定を文字や絵のスケジュールカードで知らせた。活動する上での約束事をストーリーにして知らせたり、活動の目あてを具体的に示したりした。

- ・活動後の反動が予想される時は、活動後にどうするかもスケジュールに加えて示した。
- ・苦手な活動の時は「～ができたら、楽しみな～がある。」と楽しみな活動を伝えるようにした。

資料 スケジュール、ストーリー

活動の直前に再度、約束事や目あてを確認するようにした。

活動の場で、喋り続けている時は、その程度や場面によって、静かにする事を身振りで伝えたり、緊張を和らげるために、「大丈夫」「えらいよ」と、以前よりできている部分を褒めたりするようにした。場面によっては、リラックスできるように笑顔で接するようにした。

活動後は、できた部分をほめるようにした。特に目あてを意識して取り組めた時は、花丸を書いて見せたり、ごほうびシールを貼ったりして評価をした。

市販のソーシャルスキルカードを使い、いろいろな場面での対処法を知る学習を行うようにした。

資料 ソーシャルスキルカードを使った学習

### 【支援のポイント】

文字や絵を使って予定や約束を事前に示す。

- ・本生徒が好きな4コマ漫画をヒントにスケジュールを「～の巻」のように、本生徒が好きなフレーズを使ったり、約束事を好きなキャラクターの吹き出しで伝えたりする。

- ・言葉や文は端的にする。

活動内容や目あてを明確にする。

約束した事や目あてに対して、できた部分をほめる。

活動後、気持ちのクールダウンができるように配慮する。

- ・できた事を端的にほめる。

- ・一人で好きな活動ができる時間を確保したり、場面によっては、自分からトイレなどに行き、気持ちを整理しようとする表れを認めたりする。

【 資料 】

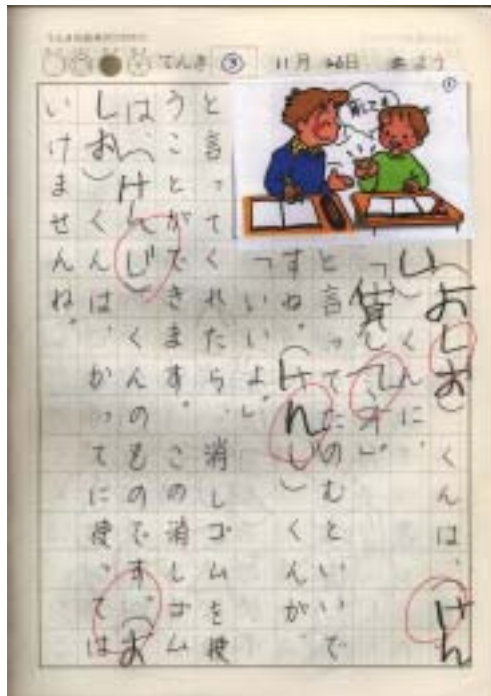
スケジュール



ストーリー



【 資料 】 ソーシャルスキルカードを使った学習



## 行事における配慮

小学部

### 「活動に見通しをもち、落ち着いて参加できるようになったH子さんの事例」

1年女子

#### 【児童生徒の状況】

- ・入学直後は、保育園生活とは異なる学校生活のリズムに慣れず、朝の活動や行事などに対して、泣く、パニックを起こして教室の床に寝そべって泣き叫ぶなどして「やりたくない。」と意思表示をする。
- ・未経験のことに對して、抵抗感が強い為、図工や音楽、生活単元学習において活動に参加できず同じクラスの子が活動していてもしゃがみ込んで動けないことが多い。教師の言葉かけも聞こうとせず、「眠い。できない。」などと言いながら目をつぶってシャットアウトする。
- ・「学校には、先生。家には父・母・兄。」と思い込み、参観会や運動会、マラソン大会などで母親の姿を見ると「帰って。来ないで。」と泣き、母親の姿が見えなくなるまで大声で泣き続ける。また、家庭訪問で、教師が家へ訪ねるとパニックになる。

#### 【指導のねらい】

学校行事の活動に見通しをもち、落ち着いて参加することができる。

#### 【指導経過】

##### 避難訓練

初めての避難訓練では、教師と一緒に避難はできたが、防災頭巾をかぶることにひどく抵抗をし、泣き叫んでしまった。

2回目の避難訓練の前に、右のカードで、防災頭巾をかぶるとであることを伝えた。

自分に似た髪型の女の子に親近感を覚え、良い例のカードを指差しにっこり笑う。「Aちゃんもにする」と、自分から防災頭巾をかぶり、防災訓練に参加することができた。



##### 授業参観

前日に母親の写真カードをカレンダーに貼りながら、「明日は、お母さん達が見に来ます。」と伝え、カレンダーに「お母さんが来る。」と書いておく。当日の朝も写真カードとカレンダーで確認する。また、他の母親のカードも一緒に掲示する。母親の姿が見えたときに「お母さんが来てもいつもと一緒に。」などと安心できるように言葉かけをする。

予告することで母親の姿を見ても普段と変わらない生活が過ごせるようになってきている。

2 (水)	3 (木)	4 (金)
	<p>さんかんび</p>	
	<p>おかあさんがくる</p>	

##### 運動会・持久走記録会などの行事

保護者会とは異なるため、母親に連絡して事前の練習時に頻繁に参観してもらった。

紙とペンを用意し、母親を拒んだときにイラストを描いて説明した。

母親の参観回数が増える度に、少しずつ意識しなくなり、行事の本番は、落ち着いて参加できた。

母親が何度も来校したことで、「学校にも母が来る。」という気持ちが芽生えてきたように感じる。

学校と同様に、家庭のカレンダーに行事を記入してもらっている。

自分から「明日は、があります。」と確認に来て、見通しがもてるようになってきた。



メモ用紙

「おかあさんがきても

#### 【支援のポイント】

手順カード・・・活動の方法を順番と絵カードで示す。終わりが分かるようにカードを裏返し「」にする。

絵カード・・・良い例・悪い例を分かりやすく、視覚的に表現する。良い方に悪い方にxを付けて端的に表現する。メモ用紙に簡単な絵を書いて示しても有効である。

言葉かけ・・・繰り返して取り組むことで、受け入れられていく。慣れるまで、小さな変化を見つけてほめていく。

カレンダー・・・一日の予定や週、月の予定をカレンダーに示して見通しをもてるようにする。

<b>コミュニケーションに関する配慮</b> <b>「サインで要求が伝えられるようになったK男さんの事例」</b>	小学部 4年男子
--	----------

**【児童生徒の状況】**

- ・表出言語は少ないが、手指で要求や自発的な発信をする。
- ・了解する時は、「アッシ」と言う。嫌な時は「ピヤー」と特定の声を発する。
- ・要求が通らない時、または、待つ時間が長い時などに、騒いで他害をすることがある。
- ・伝えたいことがある時に、自分なりのサインを作ることがある。
- ・信頼関係ができており、話を聞いてくれると思う相手に、サインで表出をする。

**【指導のねらい】**

理解言語を増やし、状況に応じてサインを使うことができる。  
 声を出して表現しようとする意欲を高め、簡単な単語の発語ができるようにする。

**【指導経過】**

本児童が好むキャラクター玩具を使用し、「ちょうだい」という要求表現のサインの獲得を行った。表出できる語彙を蓄えることを目指し、日常よく目にする物の写真や絵をカードにし、マカトンサインの指導を行った。1年間で30語以上の単語を覚えた。

本児童が好むキャラクターの絵本を見ながら、サインを表出する学習を行った。「寝る」などの動詞のサインも覚えて表出するようになった。

サインと一緒に発声することを目指し、絵本を見ながら、学習を行った。「ジャンプする」というサインを出しながら「ぴ(ぴょん)」と声を出すようになった。

日常生活に近い場面でサイン表出することを目指し、食べ物の模型を使用して、「ちょうだい」というサイン表出の学習を行った。「嫌(いらない)」というサインも覚え、表出できるようになった。

表出できる語彙を増やすことを目指し、日常生活でよく使用する名詞を増やしてカードにし、指導を行った。絵や写真を見て表出できる単語は110語以上になった。

シンボルや文字に移行していくことを目指し、絵カードと文字のマッチングを行った。「ごはん」「ぎゅうにゅう」「サラダ」など、よく目にする物はマッチングできるようになってきた。覚えたサインを適切な場面で表出することを目指し色々な絵本を用いて、写真や絵を見ながらサイン表出する学習を行った。伝えたいことをサインで表出することが増えた。

短い単語を発声することを目指した。「パン」「歯」「青」「はさみ」などの短い音の単語を発声できるようになってきた。



【 シンボル・絵カード】      【 マカトンシンボルを使った絵本】      【 シンボル・文字カード】

**【支援のポイント】**

主体的な要求表現を引き出すため、教師とのラポートをとりながら、児童の要求を受容する。サインの必要性を感じられるよう、教師に表出をすれば要求が叶うような場面設定を行う。

興味・関心をもてる分かりやすい教材・教具を作成する。

児童が好み、発達段階に合った操作性の高い課題を多く取り入れた授業構成にする。

覚えたサインを日常生活でも使用する。

## コミュニケーションに関する配慮

小学部 5 年男子

### 「言葉やカードで要求を伝えることができるようになったL男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・単語、2 語程度を話すことができる。
- ・視覚的な手立て(写真・絵・シンボル)により状況を理解することができ、気持ちを切り替えたり見通しを持って活動に取り組んだりすることができる。
- ・物を投げる、蹴る、大声を出すことで拒否したり離席して高いところに登る、たたいくことで周囲の注意をひこうとしたりすることがある。

#### 【指導のねらい】

ことばやカードで要求や意思を伝えることができる。  
(自分から言葉またはカードで教師にパズルピースが欲しいことを伝える。)

#### 【指導経過】

課題設定：パズル課題の導入

個別の学習スケジュールに本児が自習できるパズル課題(9～12ピース)を導入した。事前に1ピースを教師が抜き取り、本児が教師の支援を必要とする機会を意図的に設けた。本児が適切な方法(「先生やって。’)で教師に支援を求めることができたら持っていたピースを手渡すことにした。

経過(約3か月間)

- ・初めは、一人で集中してパズルを完成させることを重視した。  
課題達成に自信を持ち、一人で最後まで取り組んで完成させることができるようになった。
- ・パズルの1ピースを教師が(ポケットの中に)持つ機会を導入した。  
初めは、未完成のまま離席したりピースが入っていたケースで遊んだりしていることが多かった。
- ・コミュニケーションカードをヒントに示しながら、教師と一緒に「先生やって。」と言ったり「先生…」と後に続く言葉を引き出すようにかかわったりして、適切な伝え方の経験を繰り返した。  
自分から教師のそばに来るようになったが、まだ自分から教師に話しかけることは多くはなかった。徐々にコミュニケーションカードを指さすだけで求められていることが分かり、「やって。」と言うことが増えてきた。また、教師が「どうしたの?何?」とジェスチャー付きで聞き返すと「やって。」と言うことが見られるようになった。(パズルにも集中して取り組み不適切な行動が減った。)  
自分から教師に「やって。」「ちょうだい。」「パズル、ちょうだい。」などと自分なりの言葉で教師に伝えることが見られるようになった。

#### 【支援のポイント】

コミュニケーションカード

- ・机の上にカードを置き、教師が指し示して発言を促すヒントにした。  
課題の終了「できました」  
パズルピースが足りない「先生やって」  
(「先生やって」は教師に遊びを求めてくるときに既に獲得しつつある言葉である。)

課題設定

- ・パズル課題そのものは余裕を持って達成できる内容にした。
- ・学習の機会を十分に確保するため、パズルは2回スケジュールに組み込んだ。
- ・本児がどのパズルをやるか選択できる機会も設けて楽しめるよう配慮した。

かかわりのタイミング

- ・離席する前に教師が支援にまわるよう心がけた。

適切な方法であることがねらい

- ・こちらが意図した言葉「先生やって」ではなくても、適切な伝え方であればよしとした。





## コミュニケーションに関する配慮

### 「言葉で思いを伝えるようになったM男さんの事例」

小学部 6年男子

#### 【児童生徒の状況】

- ・発語がない。状況から教師が判断した考えや思いなどを提示すると、うなずきや手で触るなどして選択し思いを表す。
- ・好きなもの（競馬、相撲など）に対しては、難しい漢字を読んだり、地名を選んだりなど大変な意欲を見せる。
- ・学習中、眠くなってしまい、集中力・持続力に欠ける。
- ・自分のやり方にこだわることもあるが、説明を繰り返すことで納得し、その後は素直に行動に移すことができる。

#### 【指導のねらい】

50音表などを活用し、自発的に自分の思いを言葉で伝える。

#### 【指導経過】

50音表から文字盤を作った。1. 携帯できるようにA4程度のもの。一文字分が指先よりも広い面積のもので、自分の名前以外の文字に対する理解が不十分な本児が、正しく字を認識しやすいものとした。2. 掲示用の大きいもの。学級内で朝の会などの活動で周囲に示しやすいもの。6月から使用し始めた。

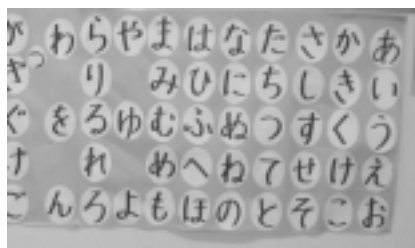
ひらがなの習得を確実にするために、書字にも取り組んだ。判別可能な限り、視写をした本児の字体を生かして”A男版50音“を作成し、丸目の写字帳で練習を重ねた。

11月からは、トーキングエイドを使い始めた。音声が出ること、電気製品に興味をもっていることなどから、休み時間にも自分から積極的に機械に触れていた。さらに、様々な機能を見つけては自分から使いこなしていった。12月中旬にはほとんどまちがえずに10文字前後を打つことができた。

発語に対して、50音表の段は聞き取れても、行をまちがえる（例として、“う”と“む”など）ことが多かった。それを解消するために、文字盤の段にはカラーテープを、行には番号をつけ、色と数字のマトリックスで正しい字を自分の力で探せるようにした。



【携帯用文字盤】



【掲示用文字盤】



【トーキングエイド】

#### 【支援のポイント】

会話や状況の流れのなかで相手側が予想できる返答であっても、文字盤やトーキングエイドを使って会話することを促し、時間がかかってもじっくりと待つ。

自分の要求を出したい時には特に使用を促す。「うまのほんかしてください」を2学期の終わりには、7、8秒で打つことができるようになった。

正確な言葉を習得することは国語・算数の授業のなかで行う。また、自分で機能を使いこなせるよう、休み時間なども自由に触れる時間をできるだけ設定する。

今後は、電子手帳などのようなもので軽量化、日常化をはかり、家庭生活にも広げていく。

<p>コミュニケーションに関する配慮 「コミュニケーションボードを使い、行きたい場所を伝えるようになったI子さんの事例」</p>	<p>中学部 3年女子</p>
--	---------------------

**【児童生徒の状況】**

- ・したいこと、してほしいことをサインで教師に伝えてくるが増えてきている。（「好きな友達の名前を言ってほしい」「着替えがしたい」「トイレに行きたい」）
- ・サインで伝わらない時は、教師の手を引いてその場へ連れて行き、指さして表現することもある。
- ・自分から人の側に行く。かかわりたくて身近にある紙をくしゃくしゃにして注意を引くことがある。
- ・好きな友達や教師に対して、決まったかかわり方を繰り返し行う。

**【指導のねらい】**  
サインや写真カードを使って、自分の気持ちを伝えることを増やす。

**【指導経過】**

教室の決まった場所にコミュニケーションボードを設け、N子の好きなブランコの写真や視聴覚室のなど、校内の写真カードを8枚貼り、指さすことで教師に自分の行きたいところを伝えられるようにした。

N子が「お・お・お・お（ブランコ）」と教師に伝えてきた時、コミュニケーションボードのところに行き、ブランコの写真を確認した後、一緒に遊び行くようにした。

昼休み、N子が写真を指さした場所へは必ず教師も一緒に行って遊び、写真を指さすことで自分の気持ちが伝わることを教えた。

やり方を覚え、毎日昼休みになると自分から教師をボードのところに連れて行き、行きたいところの写真を指さすようになった。

帰りの着替えの時、自分から更衣室の写真を指差し「着替えに行く」と教師に教えることもあった。

自分で傷をつけたところに絆創膏を貼ってほしい時、保健室の写真を教師に持ってきて伝えることがあった。



【教師と行く場所についてのやりとりをしている様子】



【コミュニケーションボード】

**【支援のポイント】**

休み時間、N子が行きたいと指さした場所には必ず一緒に行って遊ぶようにする。

本人の要求をつかんで、好きな場所の写真を用意する。

コミュニケーションボードからコミュニケーションブックなど、携帯しやすく、他の場面でも使えるものに広げていく。

<b>集団での学習における配慮</b> <b>「集団での活動に参加できるようになったN男さんの事例」</b>	小学部2年男子
---	---------

**【児童生徒の状況】**

- ・集団で活動することが苦手で、特に音楽、図工、体育への取り組みに課題がある。
- ・活動場所への移動に抵抗がある。
- ・休み時間に一人で興味のある場所に行ってしまうことがある。
- ・皮膚感覚が過敏であり、長袖の給食着や図工着を着ることに抵抗がある。
- ・強い口調の指示には興奮してパニックを起こすこともある。

**【指導のねらい】**

ルールブックや伝言ボードを利用することで、集団での活動にスムーズに取り組めるようにする。

**【指導経過】**

視覚的情報が受け入れやすく、文字が読めることや好きなキャラクター（ウルトラマン）があることから伝言ボードを利用して指示や予定を伝えた。集団での活動にスムーズに取り組めることが増えた。

特に守ってもらいたいルールや身の回りのことなど、実現可能な課題をルールブックを使って知らせた。一度では受け入れ難いことも、何回かルールブックを見ているうちに受け入れることができるようになった。（図工着を着ること、靴下を履くことなど。）

学習の経験を積む中で、「すると、かっこいいね。」という、肯定的な言葉かけで、（教師からの要求）を受け入れて行動することが増えた。

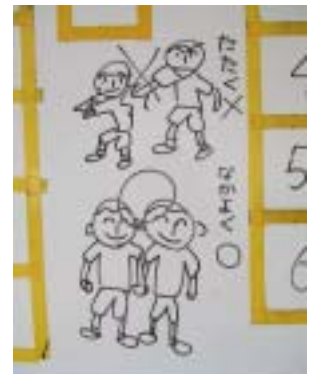
ルールブックにある「 」の行動に取り組んでいくことで、自分の行動に自信が持てるようになり、学習に主体的に取り組むことが増えた。



【個人用伝言ボード】



【ルールブック】



【絵で示した教師との約束】

**【支援のポイント】**

生活の中に楽しみを持たせ、教師と共感できる場を大切にする。（絵本読みやプラモデル作り）憧れのヒーローをキーワードに使い、動機付けをする。成功体験を増やし自信につなげる。

視覚的な手がかりを活用し、教師からの要求を伝えた。ミニアルバムを使い、本児に受け入れてほしい姿の写真や絵を入れて、「 」をつけておく方法が有効だった。文字での指示も書いておいた。「合格」など少し難しい言葉や「グランド」など片仮名文字が有効だった。

してほしいことは間接的でやわらかい口調で伝える。同時に自分の思ったことや感じたことを言葉で伝える方法を学習する。

活動の中で役割を与え、友達の前で認められる機会を増やし、自尊心を高める。

## 集団での学習における配慮

小学部  
3年男子

### 「見通しを持って活動に参加できるようになった〇男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・自分の気持ちを伝える手段として活用することはほとんどないが、「おはよう」「いただきます」など場に合った発語は少しある。
- ・暑さ寒さ、空腹、寝不足などの生理的に不快なことがあると、泣いたり大きな声を出して走り回ったり、頭をたたいたりするなどの自傷が見られる。
- ・新しいことや新しい人、新しい場所、突発的なことなど見通しがもちにくい状況のときに上記の行為が見られる。
- ・家庭では夏休み頃より気に入らないと物を投げたり破壊したりする行為が表れている。

#### 【指導のねらい】

視覚的な手がかりを活用して見通しを持って活動に参加できる。

不安定になったときに、居場所を移るなどの適切な方法を知り、自分で対処できるようにする。

#### 【指導経過】

1日の予定や活動場所など、絵カードや写真カードを用い、個別に繰り返し伝えた。

活動の中で必要な情報の絵カードを事前に用意し、集団学習場面においても個別に提示し、児童が今何をやっているのか、次に何をやるのかが分かるようにした。

教室内に日常で使用する絵カードを常設し、手洗い、着替えなど児童の理解できる言葉に合わせて提示し、絵カードの使用に慣れるようにした。

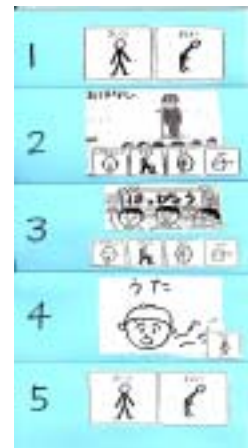
どうしても参加できない状態になったときは、保健室の写真カードを見せ、保健室に行き、気持ちを切り替えてから活動に戻るようにした。保健室については意図的にこちらが設定し、繰り返しに行く事で自分から行けるようになってほしいと考えた。

絵カードや写真カードなどを頻繁に使用することで、カードを見ることに慣れるようになり、カードの意味が分かり始めてきた。

カードの意味が分かり始めたため、事前の予定やその場での活動の内容などが分かり、納得して活動に参加できる場面が増えた。

保健室を気持ちの切り替え場所として使用することを繰り返していくうちに、いらいらしたときに児童自身から「保健室」と写真カードを指差して行き、好きな保冷剤をもらったり長椅子で横になったりすることが見られた。

学校生活を落ち着いて送れるようになったことで、苦手な活動でも終わりを見通して我慢して参加したり、突発的な変更にも事前に伝えるだけで落ち着いて参加できたりするようになってきた。



#### 【支援のポイント】

パニックになりそうな前兆を見極め、大きく崩れる前に対応する。

- ・場所や遊び、かかわっている人をさりげなく変え、気持ちを切り替える。

まずは児童の気持ちを受け入れる。ラポートが取れてきたら少しずつこちらのやらせたいことを伝えていく。

言語と共に視覚的な手がかりを活用し、カードやサインに慣れるようにすると共に、意味のあるものだと理解できるようにしていく。

予定や場所、活動内容などを絵や写真で準備し、個別に繰り返し伝えてから活動に入る。

パニックになりそうなときにどのように表現するのか、どのような行動をとったら良いのかを具体的に伝える。

- ・本児は暑さも苦手だったので、パニックになったときは保冷剤の写真カードを見せて「保健室に行こう」と言葉かけをし、教室の出口で保健室の写真カードを提示し「保健室だよ」と伝えた。保健室では保冷剤をつけさせたり、氷を食べさせたりしながら落ち着くのを待った。

学校生活の基本的なルール獲得への配慮  
「スケジュールツールの確立により主体的に行動できるようになったP男さんの事例」

高等部3年男子

【児童生徒の状況】

- ・一日のスケジュール（学習内容、学習場所、日課）の理解が不確実であいまいで、集団の流れにのって生活している。
- ・一日の授業が終わるとカレンダーを持ってきて一日が終わるとマジックで数字を消している。
- ・水遊びやたわしが気になって水道に行ってしまうことがある。

【指導のねらい】

自分のカレンダーやスケジュールカードを手がかりに、月の予定や一日のスケジュールが分かり、主体的に行動できる。

【指導経過】

個人用カレンダーを準備し、月始めに月の行事を日にちの下に書き込む。

個人用スケジュールボードを用意し、その日の授業（教科名）場所をマグネットで貼り付けていく。

課題別学習の中で、スケジュールカードを確認しながら、教師と言葉でのやりとりを行う。

（詳しい学習内容、だれと勉強するかなどを確認をする。）

大きなスケジュールボードから、小さいサイズ（はがきサイズ）の差しこみ式のスケジュールカードに変え、常に携帯し、活用できるようにした。

一日のスケジュールを明確にすることで、はじめをつけて行動できるようになった。現場実習にも携帯し、休み時間やトイレの時間を示すことで、落ち着いて取り組むことができた。



【個人用カレンダー】



【スケジュールボード】



【差し込み式スケジュールカード】

【支援のポイント】

カレンダーにこだわりがあるため、逆にこれを利用し自分専用のカレンダーを準備する。

日付の確認では毎日「今日」、「昨日」、「明日」を確認するようにし、流れを大切にす。

一日のスケジュールは、教科名と、学習場所を文字で貼りつける。教師の顔などは、文字ではなく写真で確認する。

毎日、スケジュールカードを使って、教師と確認をする。会話でのやりとりも大切にす。慣れてきたら、一人で確認し、行動する。

現場実習など、様々な場に差し込み式スケジュールカードを携帯し、活用する。

## 学習の定着に関する配慮

小学部 2 年男子

### 「学習に集中できるようになったQ男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・見聞きしたことに對してすぐに反応し、自分の活動が途中であっても席を立てて見に行ったり、他人の話に言葉を挟んだりすることが多い。
- ・整理整とんや片付けが苦手である。
- ・一つの課題に集中して取り組むことが苦手である。

#### 【指導のねらい】

学習の流れを固定し、集中できる時間を考慮した複数の活動を組み合わせて授業を展開することにより、学習に集中して取り組むことができるようにする。

#### 【指導経過】（算数科 かけ算の学習）

自分の行う活動の順序が分かるように、毎回ほぼ同じ流れで授業を展開する。

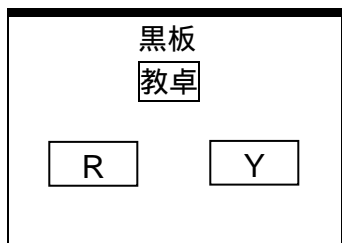
本児の集中できる時間（15分）を考慮して、復習や本時の学習、練習問題などをそれぞれ10分から15分程度で行うことができるように課題を設定する。また、活動に応じて場所を変えることで、学習に動きをもたせる。（復習時の九九の暗唱は教室側面の黒板の前で行い、一回唱えるごとにシールをはる、本時の課題の把握やまとめは黒板の前で教師と共に確認するなどの工夫をする。）

< 側面黒板に掲示した九九表 >

#### < 1 時間の活動の流れ >

- ア 復習（10分）
- イ 課題の把握
- ウ 考え・意見を持つ。
- エ 発表
- オ まとめ
- カ 練習問題（10分）

#### < 教室内配置図 >



一度に伝える指示は制限し、単文で順序立てて指示を出す。また、視覚的に残るもので提示する。大切な言葉（「かける数」「かけられる数」など）や覚えたい単語などは、フラッシュカードにしておき、毎時間提示する。

チョークの色を固定し、ポイントを絞った簡潔で分かりやすい板書にする。

本児の意欲を高めるように、最初はノートに書く量を制限し徐々に増やしていく。

ひとつひとつの活動に自分から取り組むようになり、離席することなく落ち着いて学習できるようになった。

#### 【支援のポイント】

活動は何種類か（操作性のある活動、ノートに書く活動、考える活動など）用意し、活動に応じて場所を変えるようにして、一時間内の活動に変化をもたせる。

机上での文房具の置き場所を固定したり、必要でない物を片付ける習慣をつけたりすることで、学習しやすい環境を整える。

単元ごとにできるだけパターン化した授業構成をする。

本人なりのがんばりを大いに賞揚する。

## 書くことへの配慮

小学部 5 年男子

### 「書くことに対して意欲的になってきたR男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・ 学年相応の教科学習を行っている。
- ・ WISC - 結果から 言語性IQ と動作性IQ との差が 30 以上と著しく大きい。(LD 傾向)
- ・ 学年相応の漢字を読むことはできる。書字や絵画などは苦手である。特に複雑な字形の漢字は書かない。
- ・ 苦手な学習内容のときや情緒不安定なときは集中力が欠け、私語や離席がある。

#### 【指導のねらい】

書くことに対しての抵抗感を和らげ、学習に意欲的に取り組むことができる。

#### 【指導経過】

##### (4年時)

国語科を中心に、ノートではなくワークシートを使用することでその授業で書く量を必要最低限にした。ワークシートファイルを作ることで学習の軌跡を目に見えるようにし、自信をもてるようにした。

漢字 5 問テストを宿題と絡めて行った。宿題は少量にし、抵抗なく家庭でも取り組みられるようにした。字形などにはあまり重点におかず、取り組んだことを賞揚するようにした。

##### (5年時)

本児の学習意欲は情緒の安定と深い関係があるため、生活全般においても成就感を高められるような支援をしていく。

国語科の学習では 4 年時と同様、ワークシートを用いた。内容によっては書く量を適度に増やすようにした。

学習意欲が以前より高まってきたので、低学年からの漢字の復習を毎日の宿題として始めた。

情緒が安定し、いろいろなことに自信を持ち始めたことから、生活や学習意欲が向上し、「予定帳をしっかりと漢字で書く」と自分で目標を決め、実行し始めた。そうした前向きなあらわれを大いにほめ、漢字で書けたらシールを張るようにして、頑張りの軌跡が分かるようにした。

学習意欲が高まり、書字の抵抗感が以前に比べて減ってきており、分からない漢字を自分で教科書や辞書を調べて書こうとしたり、バランスよく丁寧に書こうとしたりする姿が見られるようになった。また、各教科で丁寧にノートに書こうとする様子が見られるようになった。



5年6月頃



5年3月

#### 【支援のポイント】

言語事項のどの部分のつまづきかを知るために客観的な検査をし、実態をつかむ。

細かい字形は気にせず、まずは書いたことをほめ、自信を持たせる。(できることから始め、成功体験を増やせるようにする。)

言葉かけだけでなく、シールなどを用いて評価されたことを視覚的に分かりやすくする。

また、教科の授業内容によってワークシートを使用する。

ワークシートなどは学習した軌跡が分かるように年間通してファイルに閉じていく。

繰り返しの指導 漢字の練習を宿題として少量であるが、毎日継続する。

## 学習に見通しを持ち、意欲を育てるための配慮

小学部 6 年男子

### 「学習への意欲が育ってきた S 男さんの事例（算数科）」

#### 【児童生徒の状況】

- ・集中できる時間が短く、簡単な所でのまちがいがあるが簡単な整数の四則計算ができる。
- ・教師からまちがいを指摘されたり、まちがいを直したりすることを嫌がる。
- ・見通しがもてなくなると、怒り出し課題に取り組もうとしなくなる。

#### 【指導のねらい】

視覚的な支援を用いることにより、見通しをもち自分のペースで学習を進めることができるようにする。

#### 【指導経過】

事前に「学習の約束」を知らせた。

- ・先生を呼ぶときは、手を挙げる。＝先生に伝えたいことがあることを知らせる・小声で話す。
- ・「充電タイム」は、プリントを裏返しにする。＝気持ちを落ち着けていることを知らせる。
- ・「復活」できたときは、プリントをもとにもどす。＝学習に取り組むことを知らせる。

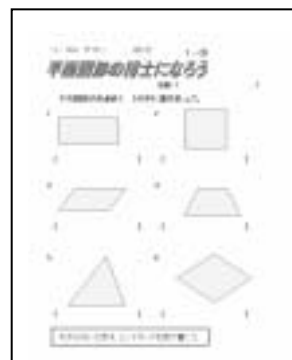
集団の中でも自分のペースで進めることができるプリント学習を行った。

- ・学習内容が一覧で分かるステップアップシートを作り、プリントを解いたらシールをはる。
- ・解き方が分からないときには、ヒントカードを利用することを伝えた。
- ・1時間の中で解く枚数を自分で決めたり、枚数を示したりして目標を決め意識付けを行った。練習量を確保した。

- ・同じ学習内容のプリントを繰り返し解く。

- ・学習問題を変えたり少し難しくしたりすることで、数多くの問題を解く段階を「パワーアップ」とネーミングして取り組んだ。

繰り返し取り組むことで、自分で気持ちをコントロールし、学習に取り組むことができるようになってきている。



#### 【支援のポイント】

見通しをもたせるために、手がかりとなるものを視覚的に提示する。

- ・常時「学習の約束」を掲示し、その場その場で約束の確認を行い意識づけていった。
- ・ステップアップシートやプリントは個人ファイルに綴じ、いつでも見ることができるようにした。

単元のネーミングやはるシールの形や色をかえ意欲的に取り組めるような工夫をする。

- ・「図形の博士になろう」「かけ算仙人になろう」などの楽しいネーミングを使った。
- ・「分かった」「できた」と感じるができるような言葉がけをする。
- ・「～までは分かっているね。」「うっかり はちべいは いないかな。」「自信をもっていいよ。」など。

できたことは、その場でほめる。



## 離席行動への配慮

小学校  
2年男子  
(通常学級)

### 「教室を飛び出さず授業に参加するようになったT男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・集中できる時間は短いが、興味・関心があることには、意欲的に取り組む。
- ・いやなことは全くやろうとせず、友達にちょっかいを出したり、手いたずらをしていたりする。
- ・授業中床に寝ころぶことがある。
- ・注意を受けると、暴力的になったり、教室から出て行ったりすることがある。
- ・体を動かすことや物を作ることが好きである。

#### 【指導のねらい】

ルールづくりを行うことで学級集団の安定化を図り、本児に対して個に応じた配慮を工夫することにより、落ち着いて学級集団での授業や活動に取り組むことができるようにする。

#### 【指導経過】

学級集団づくりの基本としての「学級の約束」「学習の約束」を作り、学級全員で確認した。本児に応じた「学習の約束」を一緒に作り、守れたときには大いにほめるようにした。授業においては以下のような個別の配慮をした。

- ・好きな算数を手がかりに、問題を全部終えたらシールを与えて賞揚し、課題に取り組む意欲の向上を図った。
- ・嫌いな国語の書くことについて、課題を達成できたらシールを与えて賞揚した（ポイント制）。
- ・物語文をオペレッタに仕上げ、体を使った表現活動を取り入れて参加しやすくした。
- ・集中できる時間が短いため、作業がとぎれることのないように1時間の中で内容を絞った課題（活動）を複数用意するようにした。

学習に集中できなくなって集団での学習が困難になったときには、養護教諭の応援を得て別室（学習室）にて心を落ち着かせるようにし、気持ちが安定してから自分の行動について振り返らせた。養護教諭には、生活全般の中で応援を頼み、保健室で本児が自分の気持ちを話したり好きな釣りの話をしたりして気持ちの安定を図ることができるようにした。

保護者にはよくなったあらわれを報告し、母親の思いも聴いて「一緒に考えていきましょう。」と提案し、本児の課題について保護者と同一歩調で支援にあたることができるよう心がけた。

少しずつ落ち着いて授業の中で課題に向かうことができるようになってきた。また、学級集団の中で本児をほめる機会が増えた。



#### 【支援のポイント】

担任だけでなく、全職員で共通理解して支援を行う。

本児には担任以外にも養護教諭に気持ちを受け止めてもらえるよう協力をお願いした。

問題となる行動への対処の仕方を共通理解し、担任以外の職員も支援にあたった。

ルールは意識化できるよう多くなりすぎないように配慮する。

本学級では、「学級の約束」を3つに絞って実施した。

ルールを提示する際には押しつけにならないよう配慮し、守れたときに大いにほめて自己肯定感を高められるようにする。

落ち着かず自分から教室を出て行くときには担任に合図をしたりカードを出したりするよう約束ごとを決める。ひとりで気持ちをコントロールできる場所があれば大切にする。

教室内の雰囲気気を配り、周囲の児童の思いを受け止めるよう心がける。

## 離席行動への配慮

### 「離席をせずに課題に取り組めるようになったり男さんの事例」

中学部  
2年男子

#### 【児童生徒の状況】

- ・一方的に話しかけることが多く、指示を聞き入れたり要求を受け入れたりすることが難しい。
- ・目を合わせることを極端に嫌がる。感覚過敏がある。
- ・離席や教室から出ることが多い。
- ・要求語の表出をしたり要求の指差しをしたりすることが難しい。
- ・設定した課題を身につけることが難しいが周りの人がやることを見て覚えていることがある。

#### 【指導のねらい】

繰り返しのある課題や、興味のある課題を取り入れることにより、離席をせずに課題に取り組むことができるようになる。

#### 【指導経過】

聴覚刺激の少ない静かな更衣室で国語・数学を行うようにした。また、視覚刺激を減らすためにパーティションで仕切るようにした。

興味のある課題を自立課題とし、約10分間、ほぼ毎日繰り返し行った。興味のある課題とは、ひらがなでのマッチング(「え」のカードをマッチングさせながら「えんげいはん」など好きそうな言葉を言う。)色の弁別、ビーズ通しである。

活動の始めと終わり、内容が分かるように、課題を箱に入れて棚に順番に並べ、自分で取り出すようにした。

ラポートがとれてきた頃(1学期後半頃)から、こちらの指示を聞いて答える課題を少しずつ行うようにした。(手はひざにおく「大きいのはどちら?」などの質問に答える)

2学期に入り、10月頃から離席をせずに約30分間、自立課題と教師とやりとりして行う課題に取り組むことができるようになった。



【授業の様子】



【用途理解、大小理解課題】



【色形弁別課題】

#### 【支援のポイント】

ラポートをとりながらMが集団に参加できない原因、離席の原因を分析する。

視覚刺激、聴覚刺激の少ない場所で課題を行う。(本生徒の実態にあった環境の構造化)

興味関心のある課題から始めるようにする。

取り組む課題を明確にし、これだけやったらおしまいという活動の枠組みをつくる。

自信を持たせるために、できたことに対してその場でほめる。

質問する前に手はひざに置くように指示し、聞く姿勢をきちんととらせるようにする。

分かりやすく達成感のある授業づくりに心がける。

## 投げやりな態度への配慮

### 「課題を理解し、やり遂げることが増えた」子さんの事例」

小学部 1年女子

#### 【児童生徒の状況】

- ・初めて取り組む活動でやり方が分からなかったり、毎日取り組む活動でもうまくできなかつたりすると、物を投げて床に寝転がり、泣く。
- ・平仮名の読みや視写ができる。
- ・言葉での指示理解が難しく、文字や簡単な絵を手がかりにすると理解しやすい。
- ・日常よく使う言葉は覚えて、単語で表出する。2語文も出てきた。

#### 【指導のねらい】

視覚的な手がかりにより課題を理解し、投げやりにならずにやり遂げることができる。

#### 【指導経過】

<初めて取り組む活動の場合>

個人用のホワイトボード（机の前の壁に掲示した）に、活動の順序を二語文と絵で示した。できない時に助けを求めるための「**てつだってください**カード」を机の上に置いた。

やり方が分からずイライラし始めた時は、カードを読むよう促し本児童から「てつだってください」の言葉が出たら、支援をするようにした。

泣いた時は、衝立で仕切った個人ブースで気持ちを落ち着かせてから、再度取り組むようにした。

困った時には、カードがなくても「てつだってください」と言えることが多くなった。

<うまくできないことに取り組む場合 ~平仮名50音のうち、苦手な字を書く時~>

簡単な平仮名の視写ができるが、「す」などはうまく書けず、手本と見比べて違うことが分かる  
と鉛筆を投げて泣いていた。

なぞり書きは線からはみ出ることなくできるので、なぞり書きから始め、なぞる線を少しずつ短くしていった。

なぞる線が短くても、自分から鉛筆を持って字を書こうとすることが増えた。



【個人用ホワイトボード】



【てつだってくださいカード】



【なぞり書き用プリント】

#### 【支援のポイント】

崩れてからの立て直しは難しいため、イライラし始めた時の表情の変化を見逃さず、投げ出す前に支援のタイミングをとらえ、気持ちを切り換えられるようにする。

自分から「てつだってください」の言葉が出た時は、その場で支援し、言葉で伝えられたことを褒める。

崩れてしまった時の手立てを常に決めておき、個人ブースで気持ちを落ち着かせたり切り換えたりし、再度取り組むようにする。

苦手な課題については、まずできるように支援を用意し、少しずつ支援を外していく。やり遂げることで成功体験を重ね、できるという自信をもたせる。

## 投げやりな態度への配慮

小学校4年男子

### 「やる気を出して頑張り始めたV男さんの事例」

(情緒学級)

#### 【児童生徒の状況】

- ・ アスペルガー症候群
- ・ 自分の世界をもち、一人で好きなことをすることが多い。
- ・ 手先が器用で物作りが得意である。
- ・ 暑さや寒さを我慢できない。
- ・ 夜眠れないで朝寝坊をしたり、学校で朝寝てしまうことがある。

#### 【指導のねらい】

苦手なことに挑戦し、「自分でもできる」ということを増やし、自信を育むことにより投げやりな気持ちや態度を改めるようにする。

#### 【指導経過】

苦手な水泳を克服していくための指導

「水遊びがいやだなあ。」という本児に、「今度、近くの温水プールへ行こう。」と投げかけ、同じクラスのBさん・Cさんの2人と一緒に出掛けることにした。本児は水に潜ることへの抵抗が大きかったため、水泳の得意なBさんが潜る様子を見せて色つき玉を水の中で拾う遊びに誘った。繰り返し活動することでその遊びの楽しさを知り、水に慣れていった。また、ゴーグルをかけることにより、さらに喜んで水遊びに熱中していった。

継続した取り組みを通して、ひとつのことに責任をもって取り組む意欲を育てる指導

一つの活動(掃除)に絞って毎日継続した取り組みができるような手立てを考えた。「これから毎日掃除をしっかり頑張ろう。一日頑張れたらシールを一つあげるよ。そのシールを30枚集めたらご褒美をあげよう。」と投げかけた。本児は、その投げかけに、「いいよ。ご褒美は何かなあ。」とつぶやきながら快く応じた。その後、「頑張り表」シールを自分で貼って集めるように促した。30枚のシールを集めて、ご褒美を手にした本児の表情はとても輝いていた。



通常学級の授業に参加できるという自信をつけ、頑張る気持ちを育むための指導

本児は、手先が器用で工作物の製作が得意である。そこで、通常学級での交流ではその得意分野を生かせる活動への参加を考えた。理科の電気の学習では、日頃からモーターや車の製作に興味のある本児は、食い入るように教師の説明に聞き入っていた。その後のモーターカーの製作では、分からないことを教師に聞きながら一番早く完成させ、達成感を得た。

#### 【支援のポイント】

遊びの要素を取り入れ、仲間と共に楽しく活動する場を設定することにより、苦手なことでも「自分にもできる」という自信や意欲を高められるようにする。

「これだけはできるように頑張ろう。」という行動目標を話し合っけて掲げ、シールなどにより自己評価が具体的な形となって見られるような工夫により、行動化を図る。

具体物を用いた操作的な活動を多く取り入れていくことにより、学習意欲や自己肯定感を育んでいく。

得意分野を生かした普通学級との交流の機会を大切にして、自信につなげる。

## 強い衝動性、攻撃性に関する配慮

小学部  
5年男子

### 「安定した気持ちで学校生活を送るようになったW男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・ ADHD
- ・ 自分の思いが通らないと、乱暴な言葉を使ったり破壊的な行動に出たりする。
- ・ 周りの状況に関係なく話し続けたり行動したりする。
- ・ 緊張を強いられるとチック症状が出ることもあるが好きなことには集中して取り組む。
- ・ 靴ひもや時刻などへのこだわりが強い。

#### 【指導のねらい】

環境を整え、行動評価表を使うことにより、安定した気持ちで生活することができるようにする。

#### 【指導経過】

個別の教室を用意し、本児が外部からの余分な刺激を受けないように教室環境を整えた。

- ・ 整理整頓に心がけ、目に入るところには学習に必要な物以外の物を置かないようにした。
  - ・ 掲示物を精選した。(色調や量)
  - ・ 廊下側の刺激を受けやすいガラス窓に紙をはり、周囲の活動が目に入らないようにした。
- 集団参加をねらう教育活動と個別対応する教育活動を本児や保護者と共に決めた。
- ・ 他児童とのかかわりや学習内容などを考慮して学習の場やグルーピングを工夫した。
- 行動評価表を作成し、毎時間ごとに教師と共に振り返り、褒めて次の活動への意欲化を図った。  
家庭からの申し出で、家庭でも行動評価表を作成し休日の過ごし方を振り返るようにした。

ただ、ほいかつ  
正しい生活をしよう

7月14日(木)

がんばること	1	2	3	4	宿舎
キスやだきつきは、やめよう。	×	★	★	×	×
しつこくしない。	★	×	×	×	★
宿は、保護でしまっておく。	★	★	★	×	★
箱をこわさない。	★	★	×	★	★
大きな声を出さない。	★	×	★	×	×

★は、褒め、×は、叱る

1. 1時間以内、2. 2時間以内、3. 3時間以内、4. 4時間以内

★は、褒め、×は、叱る

1. 1時間以内、2. 2時間以内、3. 3時間以内、4. 4時間以内

学習への切り替えができるようになり、活動に落ち着いて取り組む時間が長くなってきた。また、気持ちが安定してくることで、攻撃的な言動や人への抱きつきなどの不適切な接し方が減り、適切な距離感をもって人と接することができるようになってきた。

#### 【支援のポイント】

行動評価表は以下の点に留意して活用した。

- ・ が付く項目を必ず入れて満足感がもてるようにする。
  - ・ 状態の変化に合わせて項目を変更していく。
  - ・ 保護者との共通理解のもと、できたことを褒めるという姿勢で活用し、自己肯定感を高める。
- 行動評価表や集団参加については、本人にとって過度な負担とならないように、絶えず本人の様子を把握しながら行うようにする。

## 集団内におけるトラブルへの配慮

小学部  
5年男子

### 「集団の中で落ち着いて行動できるようになったX男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・ 集団生活における失敗が多く、自己肯定感が低い。
- ・ 言葉は豊富に知っている。経験が伴わないが知識が豊富である。
- ・ 話し合いでは、自分の意見を通そうとして強く主張する。
- ・ 冗談が通じないことが多く、叩いたり、蹴ったりしてかえすことがある。  
あいさつ代わりにすることもあるが、加減が分からないため相手に不快感を与えることがある。
- ・ 友達との遊びの中で、自分の解釈でルールを作り、周囲の理解を得られないことがある。

#### 【指導のねらい】

正しい行動やコミュニケーションなどの社会的スキルを繰り返し教えることにより、集団での問題行動やトラブルを減らすことができるようにする。

#### 【指導経過】

##### （日常の指導）

課題の意識付けを図るために、教師と共に目標を立て、「がんばりカード」に目標を記入させる。シールをはることで評価が視覚的に分かりやすくする。帰りの会で反省する時間を設定する。目標が達成できたときは大いにほめる。正しい行動が習慣化したら次の目標を立てる。日常生活において、上手なかかわり方や、落ち着いた行動が見られたときにはその場で大いにほめる。保護者にあらわれを伝え、ほめてもらう機会を増やす。

##### （友達とのトラブルが起こった時の指導）

教師は冷静な態度で接し、1対1で話せる環境を作る。本人の気持ちを聞いて受けとめる。トラブルの状況と本人の気持ちを図や文字で示す。そのときの行動やかかわり方がどうだったかを一緒に考え、正しい方法を教えていく。また相手の気持ちなどを具体的に分かるように同様の手立てで伝える。暴力は絶対にいけないということをきっぱり伝える。

正しい行動をほめられることで少しずつ自己肯定感が高まり、学習や生活など様々な場面で落ち着いた行動が習慣化されるようになった。対人関係においても衝動的な言動ではなく、相手に不快を感じさせない言動が増え、友達とのトラブルが減少した。

#### 【支援のポイント】

トラブル後の指導では、決して否定的に対応せず、本人の気持ちを受けとめながら正しい行動を示していく。逆に上手なかかわりをもてたときにはその場で大いにほめる。学校であったトラブルや指導を保護者にその日のうちに伝え、家庭でもフォローをしてもらえるようにする。本人との話し合いを通して、日頃から、自身の課題について意識させる。さらに、具体的な自己目標を考えさせることで、自身の課題をより強く意識できるようにする。トラブルの際には、気持ちを落ち着かせ、文字や図にして一連の行動や気持ちなどを具体化し、一緒に正しいかかわり方を考えながら教えていく。

#### 心の花を咲かせよう

##### 今月のめあて

- ・ 自分のこと ・ 相手とのこと

##### 例（きたないことばを使わない）

このなかにシールをはる。

3種類のシール（合格、おしい、残念）を用意し、帰りの会で自己評価させる。

がんばりカード（縮小版）



## 集団内におけるトラブルへの配慮

小学部  
6年男子

### 「小集団活動で友達とのかかわり方を学んできたY男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・言語が豊富である。話し合いでは相手の気持ちを察することができずに理屈責めにしてしまうことがある。
- ・意見を押し通そうとしたり、否定されたことに関して強く主張したりする。
- ・勝ち負けにこだわる。
- ・体を動かすことや体験活動が好きで、大変意欲的に取り組む。

#### 【指導のねらい】

友達と協力して取り組む小集団活動を設定して社会的スキル(友達との協力、表現方法、ルールの理解など)を高めることで、好ましい態度で友達と接することができるようにする。

#### 【指導経過】

日常生活場面での指導と合わせて、自立活動の時間に小集団の中で友達との適切なかかわり方やコミュニケーションの力の向上をねらった活動を設定してきた。

単元「めあてをきめよう」で自分の課題を担任と一緒に考えた。

『友達の意見を最後まで聴いて考え、自分の意見を正しい言葉遣いで話すことができる。』

『提示されたルールを理解し、それを守ることができる。』

課題を達成させるために、以下のような小集団活動を設定した。

- ・友達との協力をねらった単元
  - 「ドイツへ向けてシュート」(スポーツを通して)
  - 「行くぞ、探偵団」(自然体験活動を通して)
- ・適切な表現の仕方をねらった単元
  - 「みんなで考えよう」(エンカウンター)
  - 「みんなで発表しよう」(表現活動)
  - 「6年生を送る会をしよう」(表現、協力)
- ・ルールを理解し、守ることをねらった単元
  - 【「行くぞ、探偵団」の様子】
  - 「ゲートボールをしよう」「みんなで遊ぼう」「百人一首をしよう」



単元の途中に個別面談を行うことで、自分自身の言動を振り返らせた。

「行くぞ、探偵団」では、小集団グループに教員も入り、他のメンバーの気持ちを教員が言語化して知らせたことで、落ち着いて友達とかかわりながら活動することができた。

「6年生を送る会をしよう」では、話し合いのルールや場に応じた言葉遣いを繰り返し指導したことで、友達の意見を最後まで聴いて考え、相手の気持ちをくみながら、自分の意見を適切な言葉遣いで話すことができた。

「ゲートボールをしよう」では、毎回授業のはじめにルールを確認し、最後に自己評価を行った。そうしたことで基本的なルール(順番を守る、道具の使い方、審判に従うなど)を守ろうという意識をもち、活動できたことで、練習やゲーム中のトラブルが減った。

#### 【支援のポイント】

子どもたちの興味関心を生かした小集団活動を設定し、子どもたちが活動に意欲的に取り組む工夫をする中で、友達とのかかわり方をできるだけ自然に学んでいくことができるように配慮する。

個の課題を明確にし、年間通してスキルを高めていく。

活動の中では、教師が個の特性に応じた適切な声かけを行っていく。

## 感情のコントロールに関する配慮

小学部  
6年男子

### 「一人で落ち着くことができるようになったZ男さんの事例」

#### 【児童生徒の状況】

- ・できないことがあったり、誤りを指摘されたりすると興奮し、集団活動ができなくなる。
- ・イライラすると、物に当たったり、言動が乱暴になったりして、落ち着くことに著しく時間がかかる。
- ・友達とのトラブルや自分のイライラした感情を一人で解決することができない。

#### 【指導のねらい】

自分の感情の落ち着きや高ぶりを認識させ、思いを言語化させることにより、自分だけで落ち着くことができるようにする。

#### 【指導経過】

本人と一緒にルールづくりを行った。

- ・人をきずつけたり、自分をきずつけたりしてはいけないことを伝える。
- ・自分で壊したものを、ちらかしたものは自分で責任をとることを伝える。
- ・教師と一緒に決めた場所（遊具の上、校庭）で一人で落ち着くようにする。

・『落ち着いたら（活動場所）に』と話し、待っているということを伝える。戻ってきたら大いにほめる。

・落ち着いたら個別に時間を取り、どう考えたか、どうしたらよかったかについて言語化させる。

前のルールが定着してきたため、枠組みを変更して取り組んだ。

・イライラして、活動ができなくなった場合には、自分から『（場所）でどうしたい。』と教師に伝えて活動から離れるようにさせる。（「落ち着きたいので教室で一人で過ごしたい。」など）

・一人で落ち着く場所を教師の目の届くところに限定する。

次の段階として、集団の場所において落ち着くことができるようにした。

・その場で過ごすことができるようにするために、その都度、自分で活動への参加の方法について考え、教師にその方法を伝える。

ルールを明確化し、落ち着くことができなくなったら集団から離れることで、二次的なトラブルを生むことがなくなった。だんだんと自分のイライラした感情を教師に伝えることができるようになり、活動に戻る時間も30分～40分から20分程度になった。また、6年生の終わり頃にはほとんどトラブルもなくなり、集団の場で活動できるようになった。



#### 【支援のポイント】

トラブル時に、本児が落ち着いて過ごすことができるようになるまでは、その様子を距離をおいて見守る。また、言葉かけは最低限のものとし、一人の時間を設けることに重点を置く。

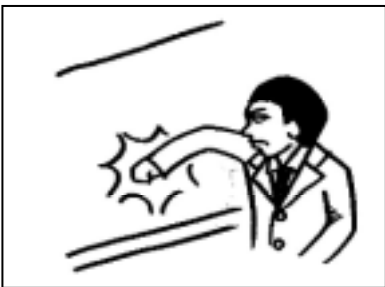

「自分で戻ってこられてえらいね。」と褒め、自分の力でイライラした感情を解決することの重要性を伝える。

自分のイライラした感情の程度をスケールでとらえ、自己評価させるようにする。

例 「さっきのイライラした気持ちは、今、100のうちのどのくらいになった？」

落ち着いたら、確実に個別の時間を取り、トラブルの原因、解決の方法を共に考える。



<p><b>危険な行動、乱暴な行動への配慮</b>  <b>「危険な行動・言葉が減り、周囲と協調することを学んだ a 男さんの事例」</b></p>	<p>高等部 1年男子</p>
<p><b>【生徒の状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな友達や慣れた教師には、自分から話しかけることが多い。冗談を言い合ったり、追いかけてをしたりして楽しく過ごすことができる。</li> <li>・甲高い大きな声が嫌いで、その場にいられなくなることがある。</li> <li>・自分の行動について何度も言葉で干渉されることが嫌いである。いったん嫌だと思った友達にはその子の些細な言葉で反応し、危険な言葉（「殺す」「抹殺する」「邪魔だ」「消えろ」）で強く批判したり部屋に入ってこないよう追い出したりする。</li> <li>・気に入らないことがあったり、苦手なことを強要されたりしたときには、無言で周りの壁、ロッカー、窓、机などを拳で殴ることがある。また、その気持ちを自分で抑えようとしてカッターやはさみを持ち、一人でいられる場所で落ち着くまで過ごすこともある。刃物による自傷、他傷はない。</li> </ul>	
<p><b>【指導のねらい】</b></p> <p>クラスや学年、学部の中で責任ある係を任せ、自信と人への思いやりを育てることにより、危険な言葉や行動を減らし友好的にかかわることができる人や場を広げる。</p>	
<p><b>【指導経過】</b></p> <p>クラスの係として「配布係」を選んで担当した。O男が忘れずに配布ができるよう、配布物がある日は本人の机の上にそれを置き、配布物ボックスに入れる支援をした。</p> <p>任されたこと、教師や友達に認められたことが自信になり、他の場面でも進んで役割を引き受けるようになった。</p> <p>O男がストレスに感じるような場の設定は避けた。（苦手な声を出す生徒とは同じ学習グループを組まないなど）</p> <p>クラスのリーダー的存在の生徒たちに、O男の特性を説明し理解してもらった。彼らはO男が乱暴な言葉や行動を起こしそうになった時には止めたり、「今のは良くないよ。」と本人のプライドが傷つかないようにたしなめたりするようになった。O男は彼らには一目置き、友達と良い関係でいたいという気持ちから危険な行動は減ってきた。</p> <p>今までは全くなかったが、自分から誘って休日に友達と遊びに出かけるようになった。一人でゲームコーナーに行くことはあっても、友達と出かけることはなかった。その後、O男の世界が広がったことで、言動も少しずつ良くなってきている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>	
<p><b>【支援のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本人を受け入れてくれる仲間作りを大切にする。</li> <li>周りの人々が本人の行動を認めてくれるような場を設定する。</li> <li>自分でできそうな役割を選ばせ、やり遂げるようにする。</li> <li>言葉だけで理解を促さずに、必要に応じて文字で約束として伝えるようにする。</li> <li>危険な言動をとったときは、必ずロールプレイ的に取り上げ、適切な言動を学習する機会をもつ。</li> <li>危険な言動は、自分の大切な人々を悲しませるということを端的に、その都度繰り返し知らせる。</li> </ul>	

## 研究実践校

静岡県立富士養護学校  
静岡県立静岡北養護学校  
静岡県立静岡北養護学校清水分校  
静岡県立天竜養護学校

## 静岡県特別支援教育体制推進事業 「自閉症の指導」研究実践事例集

平成 18 年 5 月

編集・発行 静岡県教育委員会(養護教育課)  
〒420-8601  
静岡県葵区追手町9-6  
電 話 054-221-2141